

# 十日町市博物館研究紀要

BUULETIN OF THE TOKAMACHI CITY MUSEUM

*No. 2*

March 2023

十日町市博物館

# 十日町市博物館研究紀要第2号

## 目次

### 論文等

- |                                    |       |    |
|------------------------------------|-------|----|
| 新潟県における「犬の子朔日」の変異と変遷               | 阿部 敬  | 1  |
| ミュージアム・マネジメントの実践（2）－新十日町市博物館の取り組み－ | 石原 正敏 | 15 |

# 新潟県における「犬の子朔日」の変異と変遷

## Variation and Transition of the "Innoko-Tsuitachi" in Niigata Prefecture

阿部 敬<sup>1</sup>

ABE Satoshi

新潟県中越地方を中心にしてかつて行われていた年中行事「犬の子朔日」について、文献調査と聞き取り調査を行い、他行事との関連や移行の状況を共時・通時に検討した。資料の充実している柏崎市と湯沢町を中心に検討した結果、まず犬の子の団子を配置する場所には南北の地域差があり、長岡以北は障子の棧等、柏崎以南は床の間・神棚になりやすいことがわかった。また、犬の子の団子の配置場所が障子の棧等、仏壇・寺院となる場合は釈迦涅槃に関連付けられ、ときに涅槃会の団子まきにも供されていた。この関連付けは1850年代から1900年頃のことと、団子まきへの編入は1930年代以前である。その後、犬の子朔日が失われてもなお犬の子の団子をいれた団子まきがみられる。あわせて、配置場所が床の間・神棚となる場合は山の神に関連付けられ、ときにその行事である十二講にも供されていた。十二支の団子を編入した十二講が独立する時期は1890年代から1930年代と考えられた。この2つの変遷は犬の子の団子の配置場所、おろす日、意味、おろした後に行われる行事は異なるが、各要素間の関係、意味機能の獲得や変化の方向性、変化の時期などの点で共通し、構造的に同型である。

### はじめに

新潟県中越地方を中心にして「犬の子朔日」（インノコツイタチ）と呼ばれる年中行事がある。正月末日頃に米の粉で十二支等の形の団子を作り、2月1日に障子や戸の棧あるいは床の間などに並べて飾るというものである。行事の起源はわかっていないが、長岡では17世紀前半には存在したといわれ、資料上では18世紀後半から20世紀中頃まで行われていたことは確認されている。実施経験や見たことがあるという話を一部で聞くことができるため、まだそう遠い記憶というほどでもないかもしれない。

しかしながらこの行事に関して集中的に検討されたことがほとんどなく、わかっていることはまだ少ない。近年ようやく、歴史的には小正月から2月中旬に実施される複数の行事と様々な意味を付加しながら、次第に取り込まれて内容を変えていったことが分かってきたところである（阿部2022）。他行事との関係を探り、変異の実態や、歴史的変遷を明らかにできれば、この行事の実態解明に一層近づく可能性がある。

本稿では、新潟県の独特な年中行事である「犬の子朔日」とその関連行事について記録資料および筆者の聞き取り調査の結果を中心に検討し、その変異と変遷の容態を明らかにする。

### 1. 研究の背景

「犬の子朔日」の初出資料は現在のところ1777年（安永6年）、深沢村五郎八組割元格だった高頭三郎左衛門家の「年中家来賄方當テ仕事巻物所持覚書帳」（大竹1988）である（阿部2022）。行事の内容については、幕府の右筆だった屋代弘賢の呼びかけに応じて越後国長岡藩の儒学者、秋山朋信（景山）が提出した答書『越後国長岡藩領風俗問状答』（鈴木1990）により初めて明らかにされた。このとき行事の意味はよくわからないものとされ、のちに秋山の答書を筆写、解題して『北越月令』（平山1969）を記した小泉氏計（蒼軒）においてもさらなる調査が必要とされていた。

比較的近年の記録では、釈迦涅槃のお供とするもの

1 十日町市博物館 〒948-0072 新潟県十日町市西本町一丁目448番地9

や、神棚（山の神）に飾り豊作を祈る（山口1967）と聞き取った例もあるが、しかしこれらの意味は行事名になっている「犬」との関係がつかめないため、起源とは異なるものと考えられてきた。春亥の子とする説（宮本1942、新潟県教育委員会1965、文化庁1971、渡辺1971、鶴巻1989）や餅犬や花かけにつながる初春の豊産の予祝行事とする説（西角井編1958）が提示されているが、いずれも予想にとどまっており、前者については否定的な意見もある（柳田1939、小林1937・1942）。

他地方の行事との関連も指摘されてきた。秋田県南部の餅犬（もちいぬ）と関連するという予想は古くからあり（中山1934、柳田1939、小林1942、亀井1996、石郷岡2004、菊池2006、溝口・中山2011）、もとは犬だけだったとの予想（柳田1939）や、新潟県や能登半島の涅槃会の団子まきに伴う犬の子の団子との関連をみる指摘（溝口2017b）がある。福井県のインノコトに関連するという予想（柳田1939）については、名称以外の接点がないことから否定的にみる意見（田中1962）もある。新潟県十日町市に伝わるシンコ細工のちんころと関係があるのではないかという示唆もあるが（森谷・西ほか1963、山口1967・1972・1976、溝口2012）、そのようにみなさない考え（横山1980）もある。

横山旭三郎（1980）は、新潟県内における犬の子朔日と他行事との関係に着目し、釈迦涅槃に関係するものと山の神に関係するものとの2者について検討した。釈迦涅槃に関するものは、2月1日に飾った犬の子の団子を2月15日の釈迦涅槃の日におおして食べたり、釈迦団子やハナクソ団子などとよばれる小さな団子に混ぜて撒いたりする。山の神に関するものは、2月1日に飾った犬の子の団子を2月9日または12日に食べたり、山の神の行事である十二講（じゅうにこう）に供えたりする。その分布を示したのはこの論者が初めてであったが、分布の示唆するところについて横山の言及はなかった。

阿部敬（2022）は長岡市の事例について、犬の子朔日の期日、製作物、行為、場所等の諸要素を抽出して行事内容の変遷を検討した。結果として、この行事の名称「犬の子朔日」が18世紀後半の文献上に初めて見え、19世紀後半から20世紀前半にかけて、晦日そば、正月じまい（納め正月等の名称がある）、ノドクピリ朔日（同じくクツワ朔日等）、涅槃会（同じく釈迦涅槃等）といった他の行事と部分習合していき、20世紀後半には釈迦涅槃の日の団子まきに組み込まれ、独立する過程を

明らかにした。また釈迦涅槃の日との関連付けは19世紀後半以降の変化であり、団子まきへの編入が文献上に登場するのは1935年からであるとされた。

しかし長岡以外の地域の状況や横山の提起した山の神との関係についてはいまだ不明な部分が多い。まずは横山の検討（1980）以降、40年以上が経過して数倍に増加した調査記録の全体把握が必要であり、それを基に分析を行う必要がある。

## 2. 目的と方法

本論の目的は犬の子朔日の変異と空間的な広がりを明らかにしたうえで、現在も各地に認められる関連行事の変異と変遷を知ることである。

検討する資料は犬の子朔日および関連行事の記録で、主として市町村史や民俗調査記録を取り上げる。一部筆者の聞き取り調査を加えている。論中で長岡の犬の子朔日の歴史の変遷（阿部2022）を随時参照する。長岡の変遷が最も長い期間にわたって追跡することができ、年代的な空白が少ない上、20世紀前半と思われる時期の状況が詳細に調査されているからである。

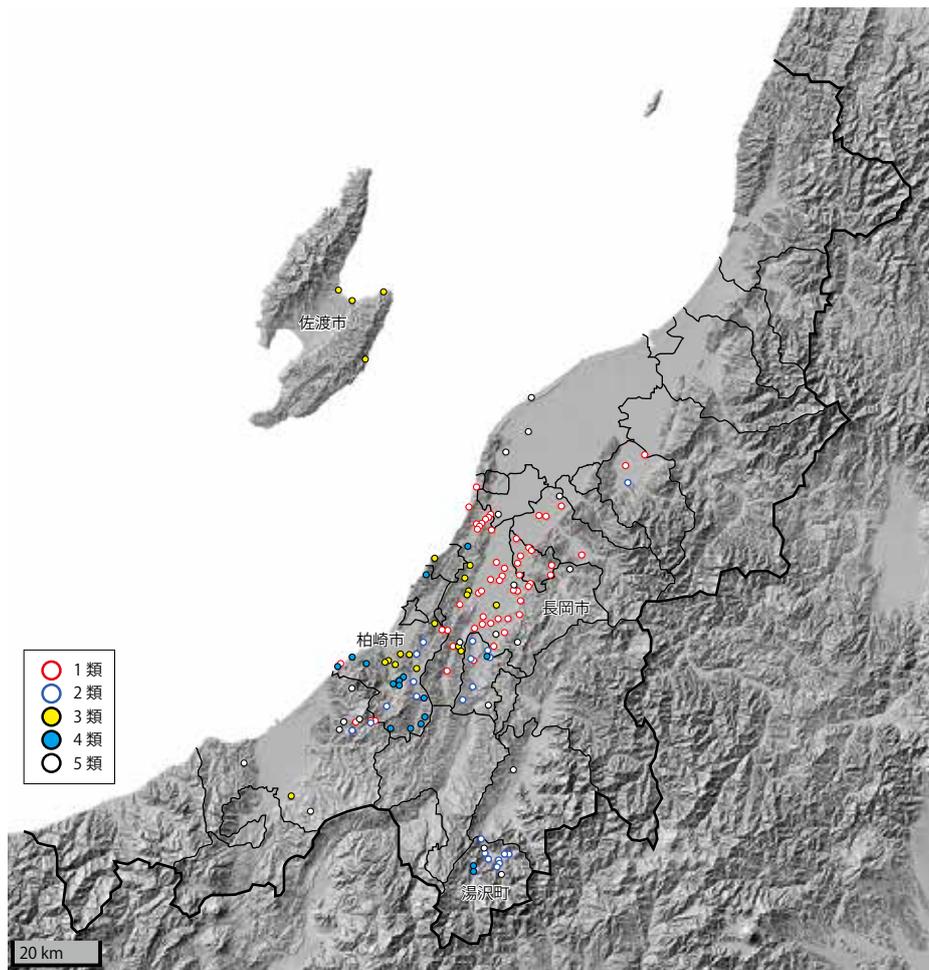
## 3. 資料の分析

### (1) 1次行為と2次行為

新潟県の犬の子朔日と関連行事の広がりをみると、かつては中越後（小泉1849）、信濃川流域（大平1895）、新潟県中部地域（小林1951）、新潟県中越地域を中心に（新潟県教育委員会編1965、横山1980）などとされており、筆者の文献調査でもこれが追認された。本論ではこれに佐渡市を加える。

県内事例を詳細に見ると、犬の子朔日および関連行事が記録された地区は、新潟市3件、五泉市3件、三条市5件、燕市1件、出雲崎町2件、柏崎市36件、見附市10件、長岡市48件、小千谷市8件、南魚沼市1件、湯沢町19件、上越市15件、佐渡市5件、計156件である（付表）（註1）。件数の多さは組織的な調査の実施と強く関連しているが、大略としては中越北部と湯沢町に集中する傾向がわかる。また中越のなかでも魚沼市、南魚沼市には非常に希薄で、十日町市と中魚沼郡津南町には現在のところまったく認められない。これは横山の示した分布ともおおよそ一致する傾向といえるだろう。

分析はまず、犬の子朔日の核心部分である犬の子の団



国土地理院地図により作成し加筆した

図1 犬の子朔日関連行事の分布

子（種々の呼び方があるが一般的な名称としてこれを用いる。）を飾るまたは供える行為を1次行為、そこから犬の子の団子をおろす際ないしはおろした後の行為を2次行為とする。両行為の期日、行為内容、場所する場所を抽出する。抽出結果は付表にまとめたので随時参照されたい。付表中の語はおおよそ原典に依拠している。

## (2) 分類と分布

行事の要素を抽出することによって、柏崎や湯沢には山の神ないし十二講と関連する事例が多いこと（横山1980）が追認されるが、ほかにも地域ごとに飾る（供える）日や場所に多様な変異が存在することがわかる。

このような変異の多様さを、犬の子の団子をおろす日や、おろす日の行事で分類することももちろん可能である。しかし筆者の集計では、おろす日が記載されている事例は半数程度で（後述）、おろす日の行為がその意味

を伴って（意識的に）行われていることが確認できる例は少ない。

また、歴史的に見ても、行事の元来の意味が伝わっていないことに起因して、行事の意味や存在が2次行為に依存していたり、1次行為を失って2次行為だけが残ったりする例もまま見受けられる（阿部2022）。

したがって比較的后代になって加わったとみられる2次行為だけでなく、旧来の形を残している1次行為を分析対象にすることも重要と考えられる。

そこでまず、上記の表から抽出しうる地域間変異を、1次行為で犬の子の団子を配置する場所によって1類から5類に分類し、その分布を示しておく（図1）。この分類および分布の特徴は次のようである。

- 1類：犬の子の団子を障子や戸の棧、框（かまち）、長押（なげし）など、屋内の部屋間または屋内外空間の境界、出入口に配置するもの。場所に

関する意味が伝えられている例はない。この分布は長岡市から見附市を中心に認められ、東は五泉市、西は上越市西部に及ぶ。ただし魚沼郡域（魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町）には認められない。1類の多くは釈迦涅槃と関連付けられている。

2類：犬の子の団子を床の間に配置するもの。場所に関する意味が伝えられている例は多いとは言えないが、山の神と説明されることがある。またおろす日が山の神の日（2月または3月の9日か12日）となる例が多い。柏崎市から小千谷市と南魚沼郡湯沢町とに多く認められ、出入口に配置する例と同様、五泉市、上越市西部に及ぶ。

3類：犬の子の団子を仏壇、寺院に配置するもの。西山丘陵周辺から東頸城丘陵北側、上越市板倉区、佐渡島の東部に認められる。寺院に配置する場合は、その全てが涅槃会の法要後に行われる団子まきに取り入れられている。犬の子朔日を前提としている場合と、独立している場合とがあり、独立している場合には犬の子朔日の伝統がなかった地域もある。佐渡市のシンコまきがこれである。

4類：犬の子の団子を神棚に配置するもの。形態的に異なるが、「雪の祠」とされていた事例もここに含めた。場所に関する意味は、山の神と説明されることがある。また、おろす日も2月9日や12日が多くみられ、山の神の日（同前）となることが多い。神棚に配置する例は柏崎市西部に多く見られ、1～3類と比べて該当件数が少ない。

5類：1～4類に当てはまらないもの。長飯台に並べるもの、食べるだけで配置する場所がないもの、さらに配置場所が不明なものも含めた。

### （3）犬の子朔日の変異と変遷

#### ①柏崎市

##### A. 町場での衰退

柏崎市の歴史資料として名高い『柏崎』（中村・西巻1915）（以下の資料1）と『西巻家歳時私録』（西巻・西巻1975）（同資料2）の記述は、同一の家の変遷を知ることができる貴重な資料である。『柏崎市史資料集民俗編』（柏崎市史編さん委員会1986）所収文から引用する。

#### 資料1 柏崎

犬の子一日・・・2月1日

近年ほんの名許り残りて居ると言ッて好い位。此日奉公人の出替りをする事は昔と変りはない。

犬の子朔日が名ばかり残っていると記述しており、著者の中村葉月と西巻三四郎（進四郎）の実体験か、少なくとも伝え聞いていた行事と推測される。20世紀初頭のことである。西巻家では、この『柏崎』からちょうど60年を経たとき、西巻達一郎と西巻郁子が『西巻家歳時私録』（1975）を記し、再びこの行事について言及している（資料2）。

#### 資料2 西巻家歳時私録

いぬのこつたち

亥の子つたちの行事は全然みたこともないし、西巻家では行われぬ。中村葉月・西巻三四郎共著の「柏崎」にも大正初期には殆んど見られなくなった行事とある。

（註）山田良平氏が戦後聞いてきた旧高田村新道の四十五、六の既婚の女の人の話として、「実家で藪入りに帰った嫁は一月卅一日の夜までには必ず婚家に帰ります。婚家で米の粉の団子に味噌汁を混ぜてこねた団子を作って食べる。これを「のどくぶり」といいます。この時「いぬのこつたち」の犬の子及び十二支に形どった団子を作り、之を仏壇に飾り、二月十五日の団子撒き当日まで飾っておくことになっているが、その間に子供達が食べ十五日まで飾ってあることは殆んどありません。何でやるのか理由はわかりません。」と。

戦後枇杷島方面の菓子屋で「しんこ細工」の動物を売っていた。藁つとに小枝の先にしんこ細工したものをつけ、入口か何かに吊っておく。

この記録は資料1の内容を引き継ぎ、その視線が歴史的な変化にも向けられている。西巻家においては、犬の子朔日が20世紀初頭には衰退し、20世紀後半にはもはや見た事もないという状況に至ったようである。

一方、旧高田村新道（旧刈羽郡高田村。現柏崎市街地からみて南方にある。）でこの行事が存在したことが記されている。ここに出てくる「戦後」「四十五、六」の人の誕生年は1900～1920年頃だろうから、少なくとも1910年～1930年頃には犬の子朔日が存在し、釈迦涅槃に関連付けられ、確かな年中行事として行われ

ていたと推測される。このとき西巻家では「ほとんど名ばかり」(資料1)なのだから、大きな違いである。町場と農村との違いは地域性と言い換えることもできるのでないだろうか。

### B. 1類と3類-涅槃会の団子まきへの移行-

柏崎市の町場から離れた地域の1類と3類に焦点を当てて詳しくみてみよう。

柏崎市東部の東長鳥では、釈迦のお供をさせるために人や動物を作って、猫と鼠は除外し、障子戸の棧に飾った。2月15日におろすが、その前に子どもが食べてしまうので、あらためて作り直したという(金塚1935・1936)。

この記録は金塚友之丞が「少年時代に親しく体験した」年中行事とされている(金塚1936)。金塚の誕生年が1890年であるから(岩野2016)、その記録は少なくとも1900年前後の状態を表している可能性が高く、時期的にも内容的にも資料2の「註」の事例に近いといえる。その後の調査でも類似の内容が記録されており(柏崎市史編さん委員会1986)、この地区では数十年間ほとんど変化がなかったようである(註2)。

柏崎市内の3類は明後沢、軽井川、南下、新道、成沢、鹿島でみられ(柏崎市史編さん委員会1986)、成沢以外は柏崎市街地からみて東南方向に位置して隣接し、上記の東長鳥(鷹之巣(金塚1939)も同じ。)や北条もこれに連なっている。地域的に近い関係にあるのかもしれない。

記録によると、明後沢では慶福寺で涅槃会の団子まきがあり、インノコの団子を混ぜている。近年の調査(溝口2014)でも旧北条村に位置する密蔵院の涅槃会の団子まきで犬の子の団子が混ぜられていた。団子まきへの編入は、金塚(1936)の記述には認められないが、三島郡西越村では1935年の報告で寺でも家庭でもまくと言っており(郷土博物館1935)、これ以前に始まっていたのは間違いない。

ほかに、犬の子朔日として供えたり飾ったりせず、2月15日に犬の子ダンゴを供えて同日にまく行為が1例(久木太)確認されている。この例は、おそらくかつて行っていた犬の子朔日が失われ、団子まき当日の行事に一本化されたもので、長岡市山ノ脇(寺泊町1988)や蓮華寺(横山1980)の例と同様と考えられる(阿部2022)。

このことに関連し、佐渡市でも犬の子の団子をまく行事があるが、これとは少し事情が異なる。

佐渡市大川(池田2006)、下久知、夷(中山・青木1938)、岩首(岩首郷土史編さん委員会1992)でも3類(寺院)の例が知られ、シンコ(犬の子の団子)を入れたシンコマきを行っている。佐渡市には犬の子朔日に類する行事の記録がないため、犬の子の団子が編入された団子まきだけが共有されていたと推測される。この地域の最も古い記録は1938年であるから、この共有が始まったのも1930年代以前のことだろう。

### C. 2類と4類-山の神の祭への移行-

柏崎市には2類と4類が多い。これらの配置は、町家では「盆にかざりおきて小児をよるこぼす」と記した小泉蒼軒の記述を想起させる。この「盆」は床の間か神棚に配置したと予想されるからである。

小泉が見た19世紀前半の当時、まだ犬の子朔日の意味が不明とされていたことは重要である。20世紀の調査でもその傾向が継続し、おろす期日が決まりがいい率は2類に高い(図2)。

2類の内訳をみると、折居・拝庭(横山1980)、拝庭、鹿島、笹崎、小清水、山澗(柏崎市史編さん委員会1986)で認められるが、いずれも行事の意味についての認識が記述されていなく不明である。折居・拝庭では山の神の日にあたる2月9日におろして食べたが、期日が一致していることに関して記述がない。4日に食べる(笹崎)、15日におろす(鹿島)といった例もあり、床の間に配置することと山の神の日におろすことの対応関係が明確に認識されていたとは言い難い。

4類はどうだろうか。笠島(新潟県教育委員会1965、文化庁1969・1971、横山1980、柏崎市史編さん委員会1986)、米山町(横山1980)、別俣(久米・細越・水上・三ツ子沢)、吉尾、谷根、大沢(いずれも柏崎市史編さん委員会1986)、門出・栃ヶ原・山中・石黒(高柳町史編集委員会1985)、石黒(石黒の暮らし編集委員会2004)、大津(村のあゆみ編集委員会2007)でみられる。

その分布は柏崎市街地からみて西南側に多い特徴がある。柏崎市以外では小千谷市三仏生(佐藤ほか1989)、長岡市小島谷(和島村1993)、同福島町、同蓬平町(新潟県1980)にもあるが数が少なく、4類の比率の高さは柏崎の地域性ともいえる。

おろす日を見ると、2類と同様、特定の行事との関連がつかめないものがある。大沢(柏崎市史編さん委員会1986)、門出・栃ヶ原・山中・石黒(高柳町史編集委員会1985)、大津(村のあゆみ編集委員会2007)、

笠島（新潟県教育委員会 1965、文化庁 1969・1971）ではやはりおろす日の記録がない。谷根では12日に食べたが、山の神の日は9日であり、この期日との関連性は不明である。

しかしまったくないのでなく、2類に比較すれば、他行事を意識したり2次行為に及んだりする例は目立つ。

別俣（久米・細越・水上・三ツ子沢）では2月1日に盆にのせて神棚に供え、5日に食べた。食べる日をノドクビリとっており、ノドクビリ朔日と融合している。

石黒では2月1日に平皿や盆に十二支順に並べて供え、山の神の日である9日におろして囲炉裏で焼いて食べた（註3）。米山町では2月1日に膳に並べて供え、9日に小豆粥に入れて、煮物と一緒に山に供えたという（柏崎市史編さん委員会 1986）。笠島（柏崎市史編さん委員会 1986）では2月1日に十二支を神棚に供え、12日の二番山の神（一番は9日）をインコロシと呼んで、小豆粥に入れて食べた。吉尾では2月1日に膳に入れて供え、9日をインコガリといて、焼いて食べた。なお上越市でも9日をインコロシ（下川谷）、犬おろし（国田）などと呼んで、山の神の日と認識する地区は多い。これらの2次行為は山の神の祭ないし山の神の日に関係していることが比較的明瞭である。

また、柏崎市付近で山口賢俊が神棚の山の神に供える事例を2件聞き取っている（山口 1967）。この例は神棚に供える1次行為がすでに山の神の祭としての意味があり、これらはおろす日から遡求して意味付与したのではないだろうか。

2類と4類はともにおろす日が9日か12日となる事例が比較的高い比率を占めているため、全体に山の神との関連性が強いようにみえるが（横山 1980）、実際に山の神と認識している地区は少なく、大半は単に団子を食べるという以外の意義を感じていなかった可能性が高い。山の神との関連性や信仰的な求心力がそれほど強くなかったことがうかがえる。

しかしながら2類と4類にわけて比較すると、4類にだけ2次行為が山の神の祭に変化したとみられる事例があり、また1次行為においても山の神と認識している事例もある。つまり山の神との関連性は4類（神棚に供えるもの）においてより強いといえるだろう。

## ② 南魚沼郡湯沢町

### A. 釈迦涅槃と十二支

管見の限り、南魚沼地域（現南魚沼市と南魚沼郡湯沢

町）で犬の子朔日の記録が初めて現れるのは渡邊行一（1936）の報告である（資料3）。

### 資料3 南魚沼郡年中行事（渡邊 1936）

二月

一日 亥子一日なり。終日業を休んで団子で十二支の形を作つたりして飾る。

南魚沼地域の犬の子朔日は、十二支のほかに、晦日蕎麦ないし正月納め、小正月、十二講との融合関係が認められるが、釈迦涅槃との関係が見られない。十二支の説話は長岡・見附市を中心に広く釈迦涅槃と関係しているが、十二支はもともと釈迦涅槃にまつわるまとまりではないため、十二支と釈迦涅槃が行事の要素として揃わないことは不思議ではない。実際、犬の子朔日に十二支が関連していることが初めて明らかになる資料は1839年の『農家年中行事記』（土田・武田ほか 1980）であって、釈迦涅槃との関連付けよりも早い。南魚沼地域では十二支の要素が釈迦涅槃と集合する前にもたらされ、定着した可能性を示唆している（註4）。

### B. 十二講への移行

瀧澤龍太郎（1936）が湯沢町三俣の興味深い行事を紹介している。

### 資料4 魚沼郡行事小篇『高志路』第22号

三月十二日午前二時頃、苗場山伊米神社の神殿に於いて山の神の祭祀を行ふ、先づ神主のお祓いあり、氏子は十二支の団子、甘酒、カラコ（餅）及鯛若くは干鰯のお供をなしてから、参拝し、其後に神社の森で…（略）

その森では呪文を唱えて弓を射たという。この行事は十二講である。十二支の団子がいつ、なぜ作られるのか、由来等は記されていないが、すでに柏崎の例で2類と4類が山の神と関連付けが行われていたことがわかっている。ここでも犬の子朔日と山の神との関係に注視しながら、年代を追って順に資料をみていこう。

まず、1978年に『湯沢町誌』（湯沢町編集委員会 1978）と『土樽村郷土史 両山』（細矢 1978）が刊行されている。ともに十二支の団子についての記述がある。『湯沢町誌』には、ミソカ正月に団子をこねて「十二のエトの動物」を作り膳にのせて床の間に供えるとし、「一般的には十三日のだんご飾りの時につくって供える」

と付け加えている。

調査地点との違いを指摘しているものと思われるが、この当時において十二支の団子を床の間に供える行為(2類)は小正月13日にする家とミソカ正月である末日にする家とがあり、前者が多いと認識していたようである。続いて、2月12日には十二講が催され、「小正月の十三日にこしらえておいた「十二のエト」を連れて行き、代表してイヌだけを連れていくことが多い」とし、犬の団子が十二講とつながっていたことを示している。

『土樽村郷土史 両山』(細矢1978)にもこれと似た例が記されており、1月14日に作飾り(団子飾りに同じ。)をするとともに「団子粉で十二支の形を作り、お膳に乗せて床の間に飾った」(古野・中里)(p.374)という。この十二支は正月納めとなる二十日正月に「イヌの形をしたものを残して」(p.377)、ほかは後日子どものおやつとして食べられ、イヌだけは3月12日の十二講で「猫足膳にのせて神社に行った」(古野・中里)。3月12日に十二の干支を床の間に飾る地区もある(滝の又)。

『湯沢町誌』でも『土樽村郷土史 両山』でも、小正月かミソカ正月に作って床の間に供えた十二支の団子を十二講でも利用していたことを明らかにしているが、その一方で、小正月の十二支がミソカ正月に利用されることはなく、小正月とミソカ正月の両方で十二支を飾ったという地区も知られていない。小正月の十二支とミソカ正月の十二支とは同じ内容、同じ機能で期日がずれているものとみなされていたのだろう。

次に、その後の変化を2004年の『湯沢町史双書』(湯沢町史編さん室2004)からみてみたい。これによると、戸沢では2月28日(晦日)に作って床の間にあげ、犬だけを十二講に連れて行った。中里・谷後・古野・堀切では3月1日をインノコヅイタチとして、「十二支の動物を形作り床の間に飾った」。このうち谷後ではその後、3月12日に犬だけを十二大明神に供えた。中里では3月12日に十二支を作って犬だけを稲荷様(註5)に供えたという。

ここでは小正月に作った十二支や犬を十二講に利用する例はなくなっており、ミソカ正月かインノコヅイタチに作って飾り、これを十二講に連れて行くように変化していることがわかる。しかしこれも戸沢と谷後にしかみられず、『湯沢町誌』にも登場していた中里では小正月からの流用ではなく当日に作るようになり、八木沢、三俣でも当日か少し前に作って供えたのである。このように見てみると、『湯沢町誌』が記録していたのは十二講

が他の行事からの流用から分離、独立する移行経過だったといえるのではないだろうか。

以上の変化はいつのことだろうか。『湯沢町史双書』に協力した話者の生年は1908年～1948年(明治41年～昭和23年)が約91%を占め、語られた状況は1950年以前のこととされる(同書「はじめに」および「凡例」より)。『湯沢町誌』『土樽村郷土史 両山』はそれより約26年前の刊行であるから、大半の話者の誕生年も単純に26年遡ってみると1882～1922年と仮定できる。よって採録されている内容の年代は1890年代以降の状況を記録していたと推測される。したがって、小正月等から犬の子の団子が流用されて十二講に編成され、次いで十二講が分離、独立するまでの移行は、1890年代～1940年代の変化を表していると推測される。

先に掲げた1936年の報告(瀧澤1936、資料4)で十二講に供えられた十二支の団子は、小正月、ミソカ正月、インノコヅイタチ、十二講のいずれかの日(あるいはその前日など)に作られたと推測されるが、元来は十二講に十二支の団子を供える必然性はないのだから、もとはこれら行事のうち十二講に先立つ行事で作られ、のちに十二講に連れて行かないしは十二講用に作られるようになったと予想することができる。年代的にも矛盾はない。

#### 4. 結論

先にここまでの分析をまとめておきたい。

まず、犬の子朔日の行為的な側面に焦点を当てるため、1次行為と2次行為とに切り分け、1次行為で犬の子の団子を配置する場所によって次のように区別した。1類：障子の棧等、2類：床の間、3類：仏壇・寺院、4類：神棚・雪の祠、5類：その他。この分類に基づき分布を検討した結果、1類が長岡市と見附市を中心にし、2類が柏崎市、湯沢町、上越市、3類が西山丘陵周辺および佐渡、4類が柏崎市西部に多く認められ、それぞれに偏りがあることがわかった。

次に、柏崎市と南魚沼郡湯沢町の各種事例から歴史の変遷を検討した。柏崎市では1類と3類が釈迦涅槃と、2類と4類が山の神と、それぞれ対応する傾向があることがわかった。長岡市の変遷を参考にすると、1・3類はこの順で変遷したものと推定される。ただし佐渡では犬の子朔日をはじめとする犬の子の団子を使用する伝統がほかにないため、1930年代までに3類として導

入されたものと推測された。

他方、2・4類については、柏崎市では山の神との関連性が4類により強く表れ、湯沢町では逆に2類からおろす日に山の神との関連性が強く、2次行為としてしばしば十二講へと持ち出されていた。

上記の1・3類の系統と2・4類系統は、犬の子の団子を配置する場所、おろす期日、おろしてから実施する行事の種類、その意味がそれぞれ異なる一方、犬だけを特別扱いすること、配置する場所よりもおろす期日に重点をおくこと、さらにおろす期日の行事に流用ないし編成され、いずれ分離してその行事に再編成されることにおいては共通の変化を示している。この2つの系統は歴史の変遷において構造的に同型であったと言えるだろう。

ここで注意しておきたいのは、1次行為の配置場所の意味機能は必ずしも2次行為の意味機能から直接明示的に遡及されないという点である。

確かに期日の認識は行事の意味と関係があり、例えば1次行為の配置場所とおろす期日との関係は障子の棧等(1類)と仏壇・寺院(3類)が釈迦涅槃の日である15日、床の間(2類)と神棚・雪の祠(4類)が山の神の日である9日か12日にそれぞれ対応する比率が高い(図2)。

地域社会で比較的篤く信仰されている対象や共同で行われることの多い既存の行事に関連付けることが、行事の意味の明示性を高め、地域社会での共有のしやすさを生み、あわせて期日の認識を強くさせていたのだろう。これらは相互的な関係にある。

しかし同時に、障子の棧等よりも仏壇・寺院、床の間よりも神棚・雪の祠のほうが、期日の明らかになっている(認識される)比率がそれぞれ約20%高く、仏壇・寺院や神棚・雪の祠への配置と期日の認識とが強い相関関係にあることを示している。

おろす期日が1次行為の意味を類推する手がかりになることは間違いではないが、障子の棧等から仏壇への変化のように、1次行為の配置場所が2次行為の意味に影響されて変化した可能性が考慮されるなら、おろす期日は常に元来の1次行為の意味を決定する要素とはなるわけではないだろう。

このことに関して、1次行為で神棚に配置して「山の神」と認識していた例(山口1967)が重要な手がかり

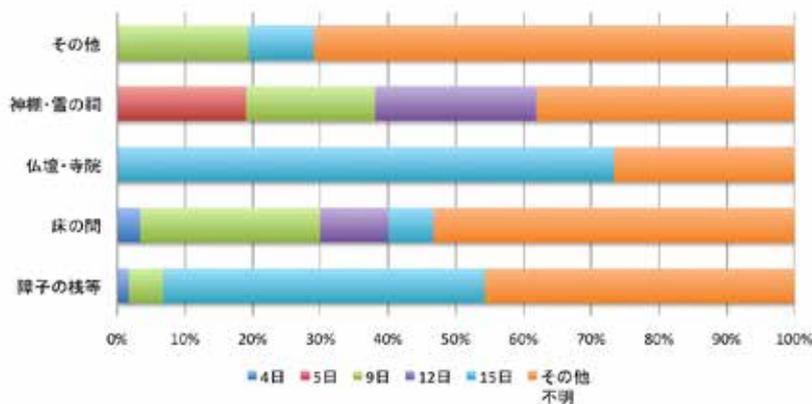


図2 犬の子の団子の配置場所とおろす期日

となる。記録年代上、この例は比較的新しく、それ以前には見られない。2次行為と1次行為とに一貫性を持たせるため、2次行為の意味機能である山の神を1次行為にフィードバックし、配置場所(神棚)および意味機能(山の神)を変化させた例と推定することも可能である。

このように考えることができるのであれば、柏崎市等と湯沢町における2類と4類との違いは共時の地域間変異であると同時に歴史の変遷として読み替えることも可能かもしれない。2・4類の地域的偏りが生じる根本的な原因は不明だが、ここでは山の神の祭である十二講の実施の程度あるいは入念さとの関係することは予想されるだろう。湯沢町に比べて山の神の祭との関連性が相対的に弱かった柏崎市等においては、2次行為の意味機能を共同性のある当日の行事に求めることに困難があるため、これを1次行為に適用し、配置場所に反映させることで行事の意味機能を強化し、行事の維持が企図されたのではないだろうか。フィードバックが初発の動機を補って軌道修正し、行事そのものを強化、促進したと考えるのである。

この予想にもまた十分な検証が必要ではあるが、いずれにせよ歴史的経緯を考慮せずに現状を過去に当てはめることには慎重でなければならない。変化の実態は思いのほか根深く、複雑に入り組んでいる。細かな歴史資料を探り当て、丹念に解きほぐしていくことが肝要だろう。

### おわりに

犬の子朔日と関連行事について、その変異と変遷を把握することを目指して検討を重ねてきた。少なくとも新潟県内の全体的な傾向や山の神との関係性は見えるようになったと思う。まだ関係のありそうな事例も多くがあるが、思っていたよりも長くなってしまった。ここで一旦筆を擱きたい。

## 謝辞

阿部美記子氏、大楽和正氏、松山恭平氏、三国信一氏、溝口政子氏、長岡市立中央図書館文書資料室、新潟県立中央図書館、十日町情報館、十日町市博物館には文献渉猟につきご協力を賜りました。駒形彪氏、高橋理信氏、門脇洋子氏、中町保夫氏、角山誠一氏、大島一夫氏、久保田守利氏、高橋由美子氏、大光寺、長久山本成寺、湯沢市教育委員会、佐渡博物館には聞き取りへのご協力または貴重なご助言を賜りました。末筆ながら記して感謝申し上げます。

## 註

- 1: 同一地区としてまとめられた資料でも、集落名が複数記されている場合はそれぞれ1件として数えた。また同じ地区名でも文献が異なる場合は、文献単位に1件とした。地区名のわからないもの、該当範囲が広すぎるもの、該当地域の調査によらず他地域の調査事例を当てはめたり、推測で書かれたりした疑いのあるものなどは取り扱っていない。以上に該当しないにもかかわらず取り扱っていない資料があれば、筆者の責任である。
- 2: 同じ地区を扱いながら、作る種類を十二の動物とか十二支とする例（新潟県教育委員会1965、文化庁1971）があるものの、金塚（1935・1936）は一貫して十二支とは記述していなかった。東長島は金塚友之丞の出身地である。「十二支」との記述は、記載者による解釈の可能性をはらんでいる。
- 3: 平皿、盆、膳にのせて供える場所は、床の間か神棚に限られていた。この事実は小泉が「盆にかざりおきて」というときに想起される配置場所が床の間か神棚だろうとの予想を補強する。小泉の述べる通り、これが町家に特有の方法であったとするなら、山の神信仰が篤いとはいえない地区で山の神と関連付けたとしても、行事の維持、継続にとってはあまり効果がなかったかもしれない。西巻家の人々の見た衰退状況はまさにそうしたことを表していたのではないだろうか。
- 4: 「亥子一日」という名称を根拠に元来は春亥の子であったと推測されているが（宮本1942）、春亥の子の内容を示す行事内容はいまのところ示されていない。この説については小林存（1935、1942、1951）はおそらく内容の相違から、そして柳田國男（1939）は名称の相違から、それぞれ否定的である。
- 5: 十二講が初午と融合している可能性がある。
- 6: 商品として市や菓子屋などで販売されたしんこ細工は新潟県、秋田県南部、能登半島でも認められる。なんらかの新しい脈絡で導入され、各地の伝統的な年中行事に影響を与えたと推測されるが、本論では議論の複雑さを避けるため控除した。

## 引用参考文献

- 文化庁 編 1969『日本民俗地図』I、国土地理協会  
文化庁 編 1971『日本民俗地図』II、国土地理協会  
五泉市史編さん委員会 編 1999『五泉市誌』民俗編、五泉市  
五泉市史編さん委員会民俗部会 編 1990「年中行事」『五泉の民俗』第1集、p.178-182  
平山敏治郎 校訂・編 1969「北越月令」『日本庶民生活史料集成』第9巻、p.558-593、三一書房

- 細矢菊治 1978『土樽村郷土史 両山』細矢菊治  
細矢菊治 1994『南魚沼郡水無川流域の歴史』大和町水無川流域の歴史を語る会  
五十嵐伊三郎 編 1958『解村記念 五十沢郷生活誌』五十沢郷土研究会  
池田哲夫 2006『佐渡島の民俗』高志書院  
石郷岡千鶴子 2004「モチイヌの信仰」『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』第3号、p.35-62  
石黒の昔の暮らし編集会 編 2004『ブナ林の里歳時記』大橋寿一郎  
石内郷土誌編集委員会 編 1967『石内郷土誌』塩沢町教育委員会  
板倉町史編さん委員会 編 2003『板倉町史』通史編、板倉町  
岩首郷土史編集委員会 編 1992『岩首郷土史』両津市岩首区長  
岩野邦康 2016「昭和戦前期の新潟県下越地方における中等教育と在野研究—金塚友之丞の地理教育と民俗研究を事例として—」『学芸地理』71号、p.39-56  
出雲崎町史編さん委員会 編 1987『出雲崎町史』民俗・文化財編、出雲崎町  
十文字町史編集委員会 編 2003『十文字町史』十文字町  
金田文男 2009「冬井の年中行事」『高志路』第371号、p.38-47  
亀井千歩子 1996『日本のお菓子 ●祈りと感謝と厄除けと』東京書籍  
加茂村誌編集委員 編 1963『加茂村誌』両津市加茂公民館  
刈羽村物語編さん委員会 編 1971『刈羽村物語』刈羽村役場  
柏崎市史編さん委員会 編 1986『柏崎市史資料集』民俗篇、柏崎市史編さん室  
柏崎市史編さん委員会 編 1990『柏崎市史』上巻、柏崎市史編さん室  
菊池勇 2006「菅江真澄 注釈 小野のふるさと」『真澄学』第3号、p.157-159、東北芸術工科大学東北文化研究センター  
金塚友之丞 1935「いんのご団子に除かれる動物」『高志路』第1巻第10号、p.44、高志社  
金塚友之丞 1936「刈羽山村の正月」『越志路』第2巻第9号、p.25-31、越志社  
金塚友之丞 1950「年中行事（県下民俗入門（6））」『高志路』第144号、p.16-21、高志社  
小林存 1935『越後方言考』佐藤今朝夫（1975復刊、図書刊行会）  
小林存 1942『いんのご団子』高志路第78号、p.18、高志社  
小林存 1951『越後方言七十五年』高志社  
国学院大学文学会民俗学研究会 編 1956「新潟県中頸城郡吉川町源」『31年度民俗探訪』、p.1-72  
近藤勤治郎 1973『三島郡誌』中村安孝、名著出版  
越路町史編集委員会民俗部会 編 1997『聞き書き わたしたちの暮らし—越路町の民俗—』越路町史双書 No.4、越路町郷土博物館  
郷土博物館 1935「いんの子朔といんの子団子」『高志路』第1巻第9号、p.35・36、新潟県民俗学会  
前川のあゆみ研究会 編 2015『前川のあゆみ』前川のあゆみ研究会  
巻町 編 1992『巻町史』資料編6 民俗、巻町  
見附市史編集委員会 編 1981『見附市史』上巻（1）、見附市役所  
見附市史編集委員会 編 1985『ふるさと見附の歴史』見附市役所  
宮本常一 1942『民間暦』六人社  
溝口政子 2012「八朔の馬、二月の犬」『新潟日報』8月31日夕刊  
溝口政子 2014a「長岡・雲出の香林寺の涅槃団子」『\*ブレ・リ \* 麦だったり、米だったり、私たちの食と祈りの民俗をつなぐもの。』、[http://ble-riz.blogspot.com/2014/02/blog-post\\_15.html](http://ble-riz.blogspot.com/2014/02/blog-post_15.html)（2021年9月13日確認）  
溝口政子 2014b「長岡・寛益寺の涅槃団子づくり」『\*ブレ・リ

- \* 麦だったり、米だったり、私たちの食と祈りの民俗をつなぐもの。』、[http://ble-riz.blogspot.com/2014/02/blog-post\\_13.html](http://ble-riz.blogspot.com/2014/02/blog-post_13.html) (2021年9月13日確認)
- 溝口政子 2014c「長岡・香安寺の涅槃団子」『\*ブレ・リ\* 麦だったり、米だったり、私たちの食と祈りの民俗をつなぐもの。』、[http://ble-riz.blogspot.com/2014/03/blog-post\\_12.html](http://ble-riz.blogspot.com/2014/03/blog-post_12.html) (2021年9月13日確認)
- 溝口政子 2017a「ちんころと犬の子朔日」『新潟日報』2017年1月26日朝刊、p.21
- 溝口政子 2017b「涅槃会の犬の子」『新潟日報』2017年2月16日朝刊、p.17
- 溝口政子・中山圭子 2011『福を招くお守り菓子 ●北海道から沖縄まで』、講談社
- 森谷周野 1974「上関田の年中行事」『高志路』第299・230合併号、p.53-55、新潟県民俗学会
- 森谷周野 1982「東蒲原郡三川村上綱木」『越佐の小正月行事』p.57-71、新潟県教育委員会
- 森谷周野・西信治・渡辺越夫・高橋実・佐久間惇一・駒形彪・山口賢俊 1963『インノコツイタチ。神の留守について』『高志路』第199号、p.27-28、新潟県民俗学会
- 長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会 編 1989『聞き書き 長岡の民俗(1)』長岡市史双書No.2、長岡市
- 長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会 編 1990a『聞き書き 長岡の民俗(2)』長岡市史双書No.6、長岡市
- 長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会 編 1990b『聞き書き 長岡の民俗(3)』長岡市史双書No.12、長岡市
- 長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会 編 1990c『聞き書き 長岡の民俗(4)』長岡市史双書No.13、長岡市
- 長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会 編 1990d『聞き書き 長岡の民俗(5)』長岡市史双書No.14、長岡市
- 長岡市 編 1992『長岡市史別編 民俗』長岡市
- 長岡市立中央図書館文書資料室 編 2005『長岡城之面影-長岡城下年中行事-』長岡市史双書No.44
- 中村葉月・西巻三四郎 1915『柏崎』高桑書店(柏崎市史編さん委員会1986所収)
- 中之島村史編さん委員会 編 1988『中之島村史』民俗・資料編、中之島町
- 中山徳太郎・青木重孝 1938『佐渡年中行事』民間伝承の会
- 新潟大学人文学部民俗学研究室 編 1999『米山の民俗—新潟県柏崎市米山町—』新潟大学民俗調査報告書第5集、新潟大学人文学部民俗学研究室
- 新潟大学人文学部民俗学研究室 編 2003『大倉の民俗—新潟県北魚沼郡守門村大倉—』新潟大学民俗調査報告書第9集、新潟大学人文学部民俗学研究室
- 新潟大学人文学部民俗学研究室 編 2014『下久知の民俗—新潟県佐渡市下久知—』新潟大学民俗調査報告書第20集、新潟大学人文学部民俗学研究室
- 新潟県教育委員会 編 1979『新潟県民俗地図』新潟県教育委員会
- 新潟県教育委員会 編 1977『越後・佐渡の定期市』第一法規出版
- 新潟県民俗学会 編 1989『儀礼伝承』『図説日本民俗史 新潟』、p.162-166、佐藤文夫
- 新潟市史編さん民俗部会 編 1994『新潟市史』資料編11 民俗II
- 西巻達一郎・西巻郁子 1975『西巻家歳時私録』(柏崎市史編さん委員会1986所収)
- 小国町史編集委員会 編 1976『小国町史』本文編、牧野功平
- 小千谷市史編修委員会 編 1969『小千谷市史』本編上巻、新潟県小千谷市
- 大平與文次 編 1895「一部落の風俗習慣」『越後風俗志』第3集、p.24-85、温古談話會
- 大竹信雄 1988「長岡領深沢村高頭家「諸事覚書帳」について」『新潟県の民俗と歴史』p.183-200、駒形彪先生退職記念事業の会
- 佐藤正英・平沢宏・平沢吉郎・和田智良・新保稔・和田治・和田登喜男・和田庄一郎 1982『三仏生のあゆみ』三仏生区
- 佐藤武・平沢甲作・佐藤国治・西牧一郎・南雲栄作・中野昌朋・南雲市太郎・小林憲隆 1989『山谷のあゆみ』山谷区
- 高柳町史編集委員会 編 1985『高柳町史』本文編、新潟県刈羽郡高柳町
- 三条市史編修委員会 編 1982『三条市史 資料編八 民俗』新潟県三条市
- 成城大学文芸学物文化史学科 編 1983『菱ヶ嶽山麓の民俗—新潟県東頸城郡安塚町伏野・須川—』成城大学文芸学物文化史学科昭和58年度文化史ゼミナール(田中宣一ゼミ)
- 鈴木昭英 1990「秋山景山自筆の「諸国風俗問状越後国長岡領答書」」『長岡市立科学博物館研究報告』第25号、p.61-78
- 高岡功 1982「加茂市黒水」『越佐の小正月行事』p.72-84、新潟県教育委員会
- 瀧澤龍太郎 1936「魚沼郡行事小篇」『高志路』第22号、p.36-41、高志社
- 田中宣一 1962「インノコト」『日本民俗学会報』第23号、p.11-15、日本民俗学会
- 寺泊町 編 1988『寺泊町史』寺泊町
- 十日町市史編さん委員会 編 1995『十日町市史』資料編8 民俗、十日町市役所
- 土田隆夫・武田広昭・真水淳 校注・著 1980「天保十年 農家年中行事記 大平與兵衛 著」『日本農書全集』25、p.258-293、農山漁村文化協会
- 上田村郷土誌編集委員会 編 1976『上田村郷土誌』塩沢町教育委員会
- 渡邊行一 1936「南魚沼郡年中行事(2)」『高志路』第14号、p.30-33、高志社
- 渡邊行一 1971『越後南魚沼民俗誌』常民文化叢書6、慶友社
- 山田良平 1957『柏崎歳時記』越後タイムス社
- 山口賢俊 1967「チンコロ」『高志路』第212号、p.53、新潟県民俗学会
- 山口賢俊 1972『日本の民俗 新潟』p.239・240、第一法規出版
- 山口賢俊・佐藤和彦 1982『生きている民俗探訪 新潟』第一法規出版
- 山古志村史編集委員会 編 1985『山古志村史』山古志村役場
- 柳田國男 1939『歳時習俗語彙』民間伝承の会
- 柳田國男 1977「歳時小記」『年中行事覚書』講談社学術文庫、p.68-86、講談社
- 安田町編さん委員会 編 1997『安田町史』民俗編、安田町
- 横山旭三郎 1980「犬(戌)子朔日」『高志路』第255号、p.9-14、新潟県民俗学会
- 吉田町 編 2002『吉田町史』資料編6 民俗、吉田町
- 吉川町史編さん委員会 編 1996『吉川町史』第2巻、吉川町
- 湯沢町史編さん室 編 2004『湯沢町の民俗(II) 人の越後—湯の里越後・まつりごと—』湯沢町史・双書8、湯沢町教育委員会
- 湯沢町誌編集委員会 編 1978『湯沢町誌』南魚沼郡湯沢町教育委員会

付表 新潟県内の犬の子朔日関連行事(1)

自治体 (現在)	地区	1次							2次			備考	文献
		行事名称	素材	製作物(名称)	期日	行為	場所	期日	行為	場所			
新潟市	五十嵐二の町	キツネ作り	米粉	キツネ、鶏、犬、地藏	1月27-28日頃作る	-	-	-	食べる	-	-	新潟市史編さん民俗部会1994	
新潟市	西蒲区管根	いんの子一日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	横山1980	
新潟市	蓬ノ木	インコ朔日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	巻町1992	
五泉市	村松	-	・米粉 ・木	・十二支の動物(米粉) ・犬(木)	-	飾る	床の間	2月9日	犬の団子は持って参る。ほかの団子は食べる。	山の神(十二支) 家(木の犬)	-	横山1980	
五泉市	清瀬・今泉	-	米の粉	十二支の動物や犬	3月(中層2月)1日	飾る	戸のさん	-	-	-	-	五泉市史編さん委員会1999	
三条市	柳場	いんの子朔日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	横山1980	
三条市	井栗・曲淵	亥んの子朔日	-	十二支の動物(インコ団子・ドクビ団子)	2月1日	飾る	障子の棧	2月15日	おろす	-	-	三条市史編修委員会1982	
三条市	桑雨町	-	米の粉	犬・猫?(靴を持つ)、鳥	1月下旬~2月はじめ	飾る	障子の棧	-	ボロボロになったらおろす	-	-	筆者聞き取り2023	
三条市	楢山	-	-	十二支の動物	2月1日	飾る	戸の棧	2月15日	犬以外を食べる	-	-	横山1980	
燕市	地藏堂	インココー日	-	-	3月1日	-	-	-	-	-	-	2月正月の頃、3月1日がインココー日 分水町2003	
出雲崎町	尼瀬	インコ	-	インコ	2月朔日(3月1日)	作る	-	-	-	-	-	新潟県教育委員会1965、文化庁1969	
出雲崎町	尼瀬	-	-	十二支	-	-	-	-	-	-	-	横山1980	
柏崎市	米山町	インコ朔日	米粉	十二支	2月1日	飾る	障子の棧	2月9日	おろして小豆粥に入れ、煮物と膳にして山に供える	大田	2月9日はインコロシ。山の神に供える。	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	鷹之巣	インコツイタチ	米粉	人・馬・猿・亀・鶏・犬・その他いろいろ(インココ)、猫と鼠は作らない	2月1日	飾る	障子戸の棧	2月15日	団子汁にして食べる	-	-	金塚1939	
柏崎市	大字東長島	いんの子正月	普通粉	人・動物。猫と鼠は除外。	1月28日から末日に作る	飾る	戸の棧	2月15日	-	-	-	15日におろすが、その前に子供が食べてしまうこともある。作り直しをする。 金塚1936	
柏崎市	東長島	インコ正月	エリゴ	12の動物。猫と鼠は作らない。	-	つるす	障子の棧、戸のさん	2月15日	おろすと、子供がいたずらしてすぐなくなる	釈迦のお供をさせる意味	新潟県教育委員会1965、文化庁1971	新潟県教育委員会1965、文化庁1971	
柏崎市	東長島	-	-	十二支の動物(猫と鼠は除く)	2月1日	飾る	障子の棧	-	-	-	-	釈迦のお供をさせる 横山1980	
柏崎市	笹崎	インコ朔日	米粉	十二支	2月1日	飾る	床の間	2月4日	焼いたり煮たりして食べる	-	-	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	折居・拝庭	-	-	十二支の動物	2月1日	つけ木の上に並べてお膳にのせ飾る	床の間	2月9日	おろして食べた	-	2月9日は山の神の日	横山1980	
柏崎市	拝庭	インコ朔日	米粉	十二支	2月1日	つけ木の上に並べて盆に供えて飾る	床の間	2月9日	焼いて食べる	-	2月9日は山の神の日まつりにあたる。	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	鹿島	インコ正月	米粉	十二支	2月1日	飾る	床の間	2月15日	おろす	-	2月15日は団子まき(釈迦の法会)	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	小清水	インコ朔日	米粉	十二支(目にケンボロの木の葉を入れた)	2月1日	飾る	床の間	-	-	-	-	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	山淵	インコ正月	米粉	犬、兎、猿、鶏、亀など	2月1日	飾る	床の間	-	-	-	-	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	別俣(久米・細越・水上・三ツ子沢)	インコ朔日	米粉	十二支	2月1日	盆に飾って供える	神棚	2月5日	焼いて味噌汁にいれたり糞な粉をつけて食べる	-	犬は必ず作る。食べる日はドクビ。	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	石黒	えんのご朔日	米の粉	十二支	2月1日	平皿や盆に十二支順に並べて供える	神棚	2月9日	囲炉裏で焼いて食べる	-	2月9日は山の神の日	石黒の暮らし編集会2004	
柏崎市	吉尾	インコ朔日	米粉	十二支(インコ)	2月1日	膳に並べて供える	神棚	2月9日	焼いて食べる	-	1月31日はインコツクリの日。2月9日はインコ祭り。	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	米山町	インコ朔日	米粉	十二支	2月1日	飾る	神棚	2月9日	おろして小豆粥に入れ、煮物と膳にして山に供える	大田	2月9日はインコロシ。山の神に供える。	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	谷根	インコ朔日	餅	十二支	2月1日	盆にのせて供える	神棚	2月12日	家族一同で食べる	-	山の神は2月9日	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	笠島	インコ朔日	米粉	十二支	2月1日	供える	神棚	2月12日	小豆粥に入れて食べる	-	2月12日はインコロシ。二番山の神(一番は2月9日)。	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	笠島・米山町	犬ころし(2月1日)	餅	十二支の動物	小正月	供える	神棚	2月15日	小豆粥に入れて食べる	-	2月1日は犬ころし	横山1980	
柏崎市	大沢	インコ朔日	餅(糯米と粳米を混ぜた)	十二支	2月1日	飾る	神棚	-	-	-	-	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	門出・柳ヶ原・山中・石黒	狗の子朔(いぬのこついたち)	米粉	十二支	2月1日	供える	神棚	-	-	-	-	高柳町史編集委員会1985	
柏崎市	大津	インコツイタチ	米の粉の団子	十二支の形	2月1日	飾る	神棚	-	-	-	-	村のあゆみ編集委員会2007	
柏崎市	笠島	インコ(インコ)ついたち、亥ノ子一日(亥ノ子ツイタチ)	餅	十二支(クビクリダンゴ)	2月1日	供える	神棚	-	-	-	-	新潟県教育委員会1965、文化庁1969-1971	
柏崎市	軽井川	インコ朔日	米粉	十二支	2月1日	供える	仏壇	2月15日	供えてから撒く	-	-	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	南下	インコ朔日	米粉	インコ・十二支(インコ)	2月1日	供える	仏壇	2月15日	供えてから撒く	-	釈迦涅槃の日にあためて作る	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	新道	いぬのこついたち	米粉	犬の子及び十二支にかたどった団子	-	飾る	仏壇	2月15日	-	-	-	団子まき当日におろすものだが、それまでに子供達が食べてしまうので残っていない 柏崎市史編さん委員会1986所収(西巻家蔵時録1975、1952年に稿本作成。)	

付表 新潟県内の犬の子朔日関連行事(2)

自治体 (現在)	地区	行事名称	素材	1次				2次				備考	文献
				製作物(名称)	期日	行為	場所	期日	行為	場所			
柏崎市	明後沢	インコ朔日	米粉	十二支	2月1日	供える	仏壇	2月15日	供えてから置く	慶福寺	慶福寺で、釈迦涅槃の日にあらためて作る。	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	成沢	インコ朔日	米粉	インコ	2月1日	供える	仏壇	-	さげて子供に食べさせる	-	-	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	久木太	-	-	犬の子ダンゴ	2月15日	供えてから置く	寺院	-	-	-	釈迦涅槃の日に犬の子ダンゴも作って供え、置く。	柏崎市史編さん委員会1986	
柏崎市	北条	-	-	十二支の動物(鼠は除く)	2月1日	-	-	2月15日	さげて食べる	-	2月15日は犬の子おろし	横山1980	
見附市	牛ヶ嶺	-	うる米	鶏・動物	2月1日	飾る	茶の間の障子の棧	2月15日	おろして食べる	-	おろす前に子どもが食べる	横山1980	
見附市	小栗山・釈迦塚・牛ヶ嶺	いんの子一日	悪い米	十二支の動物	2月1日	並べる	障子の棧	2月15日	釈迦涅槃の日にあげる	-	-	見附市史編集委員会1981	
見附市	指出	-	-	十二支の動物	2月1日	飾る	障子の棧	2月15日	-	-	-	横山1980	
見附市	柳橋・反田・釈迦塚	いんの子朔日	-	十二支の動物	2月1日	飾る	戸・障子の棧・欄間	2月15日	食べる	-	-	横山1980	
見附市	杉沢町	インコ朔日、インコ子朔	団子	十二支のインコダンゴ	2月1日	並べた	障子の棧	-	-	-	-	新潟県教育委員会1965、文化庁1969、新潟県1980	
見附市	太田	犬の子朔日	-	十二支の団子	2月1日	-	-	-	-	-	この日、農人日持ちしている。	横山1980	
長岡市	脇川新田	エンコ朔日	マゴメ(稗米)粉	エゴノコ(犬の子)や十二支	2月1日	並べて飾る	障子戸の棧	2月4日	おろす(新たに作って寺でまく)	-	2月4日エゴノコウシ。	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990a	
長岡市	亀貝・富島・宮下	エンコ朔日	米粉	十二支の動物	2月1日	並べる	障子の棧	2月15日	おろす(寺では新たに作って供えて置く)	-	2月15日は団子まき。団子まきでは新たに作ってまく。	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990b	
長岡市	雲出	涅槃会	団子	十二支のインコ(犬の子)	2月13-14日	並べる	障子の棧	2月15日	子どもが焼いて食べる寺ではインコを作って供えて置く	香林寺	団子まきの際にもインコを作って本尊様の壇に飾る。色をつける。ヘビ・ブタ・テディベア、香林寺。	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990a	
長岡市	下柳・谷田・木嶋・五分一	エンコ朔日	玄米粉	十二支	2月1日	飾る	障子の棧など	2月15日	まく	-	-	寺泊町1988	
長岡市	横下	エンコ朔日(ツイタチ)	白米	犬や猫、狸などの動物の形(エンコ)	2月1日	並べる	障子戸の棧	2月15日	寺では新たに色付きを作って置く	-	2月15日は団子まき。新たに犬や兎を作った。	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1989	
長岡市	乙吉(亀崎)	インコ朔日	-	十二支のインコ	2月1日	並べる	戸の棧	2月15日	食べる	-	団子投げ前に子供が食べる	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990c	
長岡市	橋吉	エンコ朔日	米粉	十二支	-	並べる	戸の棧	2月15日	おろす	-	お釈迦様についていた動物	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990a	
長岡市	野積	-	-	十二支	2月1日	飾る	鴨居	2月15日以降	春田に出るとき焼いて食べる	-	-	横山1980	
長岡市	浜田屋	エンコ朔日	米粉	十二支	2月1日	並べる	障子の棧	-	-	-	-	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990d	
長岡市	王番田・寺堂・河根川町	-	米粉	十二支のエンコ	3月25日(月遅れ)	並べる	障子の棧	-	-	-	同日、イリゴ団子に入った団子汁(奉公人の出替わり)	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990a	
長岡市	川辺町	エンコ朔日	米粉	十二支	2月1日	並べる	障子の棧	-	-	-	-	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990c	
長岡市	黒津	エンコ朔日	米粉	エンコ	3月1日(月遅れ表示)	並べる	障子の棧	-	-	-	-	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990b	
長岡市	新長・竹森・新口	エンコ朔日	米粉	十二支	2月1日	飾る	障子の棧など	-	紙鉄砲で撃ち落とされて焼いて食べる	-	-	寺泊町1988	
長岡市	柿	エンコ朔日	米粉	十二支	2月1日	並べる	障子骨	-	焼いて食べる	-	-	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990d	
長岡市	来迎寺	犬の子朔日	団子	涅槃に居合わせた色々の動物	2月1日	飾る	竖櫓障子の横棧	-	-	-	-	三島郡誌編纂委員会1973	
長岡市	神谷	エンコツイタチ	米の粉	十二支の動物	2月1日	飾る	鴨居や障子の棧	-	-	-	-	越路町史編集委員会民俗部会1997	
長岡市	西野	団子まき	米の粉	インコ	2月15日	ならべる	障子の棧や鴨居	-	-	-	-	越路町史編集委員会民俗部会1997	
長岡市	西谷	インコツイタチ	米の粉	十二支の動物	2月1日(本正月にも)	飾る	障子の棧や鴨居	-	-	-	-	越路町史編集委員会民俗部会1997	
長岡市	浦	犬の子朔日	米粉	十二支	2月1日	並列す	遣り戸の棧、かまち	-	-	-	-	大平与兵衛1839	
長岡市	村松	いんの子朔日	粳米粉	十二支の動物	2月1日	並べる	茶の間の長押	-	-	-	-	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990b	
長岡市	寺泊	エンコ朔日	マゴメ	十二支	2月1日	飾る	床の間	-	-	-	-	寺泊町1988	
長岡市	六日市	エンコ朔日	米粉	十二支(エンコ)	2月1日	飾る	床の間	-	焼いて食べる	-	7~10日間飾る	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990b	
長岡市	百束	エンコ朔日	米粉	十二支のエンコ	2月1日	飾る	戸の棧や鴨居	-	-	-	-	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990c	
長岡市	宮本東方	エンコ朔日	米粉	十二支	-	並べる	欄間や障子の棧	-	-	-	-	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990c	
長岡市	前川	犬の子朔日	米の粉	十二支	2月1日	飾る	長押	-	-	-	-	前川のおゆみ研究会2015	
長岡市	草生津	エンコ朔日	しんこ	犬のようなもの	2月1日	供える	仏壇	-	-	-	-	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1990d	
長岡市	町経井	エンコ朔日	麦粉	十二支	2月1日	並べる	仏壇	-	お参りした人に配る	-	-	寺泊町1988	

付表 新潟県内の犬の子朔日関連行事(3)

自治体 (現在)	地区	行事名称	素材	1次				2次			備考	文献
				製作物(名称)	期日	行為	場所	期日	行為	場所		
長岡市	東谷	お釈迦様の日(団子まき)	米の粉	十二支・白団子	2月15日	配る	寺	-	-	-	延命寺(昔は堂)	越前町史編集委員会民俗部会1997
長岡市	蓬平町	インコ朔日・インコ正月など	雑穀の粉	五穀や蜜のダンゴ	2月1日	並べて飾る	床の間・障子の棧・神棚など	2月9日	おろして焼いて食べた	9日はエンコロン	-	新潟県1980
長岡市	加津保・桂・亀崎	エンコ朔日	米粉	十二支	2月1日	並べておく	障子の棧・仏壇、床の間	2月15日	おろす	龍昌庵	龍昌庵では新たに色付きを作って置く	長岡市史編集委員会・民俗・文化財部会1989
長岡市	福島町	インコ朔日・インコ正月など	雑穀の粉	十二支	2月1日	並べて飾る	床の間・障子の棧・神棚など	2月15日	粟火で焼いて食べる	-	-	新潟県1980
長岡市	小島谷	インコ朔日	粟米の粉	犬や亀、十二支の動物	2月1日	飾る	神棚、障子の棧、数屋、長押など	2月15日	団子まきする	-	別に作ったものを観音堂でまく	和島村1993
長岡市	十日町	いんの子朔	-	獣	2月1日	-	-	-	-	-	焼いて食べることもある。子供が玩具にする。	郷土博物館1935
長岡市	深沢	犬の子朔日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	大竹1988
長岡市	不動沢	インコソウイタチ	-	十二支のだんご	2月1日	-	-	-	-	-	禅宗の家だけする	文化庁1969、横山1980
長岡市	山ノ脇	涅槃会	米粉	十二支	2月15日	撒く	-	-	-	-	-	寺泊町1988
長岡市	蓮花寺	涅槃会	米粉	十二支の動物	2月15日	供えてから撒く	-	-	-	-	-	横山1980
小千谷市	二俣・片貝・高梨・香師・三仏生	亥子朔日(イノコソウイタチ)	団子	十二支	2月1日	置く	床の間	-	-	-	-	小千谷市史編修委員会1969
小千谷市	三仏生	犬の子ついで	米粉	十二支の動物の形	2月1日	供える	神棚	-	-	-	-	三仏生区1982
小千谷市	冬井	いんの子朔日	-	-	2月1日	-	-	-	-	-	-	金田2009
小千谷市	山谷	えんの子朔日	米の粉	十二支の動物	2月	並べる	なげしの上、床の間	後日	食べた	-	-	佐藤ほか1989
南魚沼市	四十日	いんの子ついで	-	-	-	-	-	-	-	-	-	大島一夫氏聞き取り2021
湯沢町	古野・中里	-	団子粉	十二支の動物	1月14日	お膳に乗せて飾る	床の間	2月12日	犬だけ猫足膳にのせて神社に参る	神社	-	細矢1978
湯沢町	滝の又	-	-	十二支の動物	2月1日	飾る	床の間	-	-	-	-	細矢1978
湯沢町	熊野	インコソウイタチ	米	十二支の動物	2月末日	飾る	床の間	-	犬だけ残して食べた。あるいは全部または犬だけを十二講に持って行って山の神に供えた。	(山の神)	-	湯沢町史編さん室2004
湯沢町	戸沢	-	米	十二支の動物	2月28日	あげて燈明を上げる	床の間	-	子供に食べさせる。犬だけ十二講に連れて行く。	(山の神)	-	湯沢町史編さん室2004
湯沢町	谷後	インコソウイタチ	米	十二支	3月1日	飾る	床の間	3月12日	犬だけ供える	十二大明神の石塔	-	湯沢町史編さん室2004
湯沢町	中里・谷後・堀切	インコソウイタチ	米	十二支の動物	3月1日	飾る	床の間	-	犬だけ残して食べた。あるいは全部または犬だけを十二講に持って行って山の神に供えた。	(山の神)	-	湯沢町史編さん室2004
湯沢町	松川	正月納め	-	十二支の動物	2月末日(新暦)	お膳に入れ飾る	床の間	-	-	-	-	湯沢町史編さん室2004
湯沢町	八木沢	十二講	米	十二支のうち犬のみ	3月12日	連れて行く	雪の祠	-	-	-	-	湯沢町史編さん室2004
湯沢町	三俣	十二講	米	イゴノコ(犬の仔)と十二支	3月12日	供えた	雪の洞前の台	-	-	-	-	湯沢町史編さん室2004
湯沢町	上谷後	-	-	犬の子	-	-	-	-	供える	-	-	新潟県教育委員会1979
湯沢町	下中	-	団子	イゴノコ(犬の仔)	3月12日	供える	-	-	-	-	-	湯沢町史編さん室2004
湯沢町	土樽	いんの子一日、いんの正月	-	-	2月1日	-	-	-	-	-	-	細矢1978
湯沢町	土樽	-	-	犬の子	-	-	-	-	供える	-	-	新潟県教育委員会1979
湯沢町	戸沢	-	米の粉	十二支	-	-	-	-	供える	-	-	新潟県教育委員会1979
湯沢町	古野・中里	いんの子一日、いんの子正月	-	-	2月1日	-	-	-	-	-	-	細矢1978
上越市	上川谷	犬ころし朔日	米粉	十二支の動物	2月1日	飾る	戸の棧とか鴨居あるいは広間の長押	2月8日または15日	焼いて食う	-	2月8日または15日は犬ころし	国学院大学文学部民俗学研究会1956
上越市	下川谷	インコ朔日またはインコソウイタチ	米粉	十二支の動物	3月1日(月遅れ表示)	並べる	広間のサシの上	3月9日	子どもが焼いて食う	-	3月9日はインコロン	国学院大学文学部民俗学研究会1956
上越市	大賀 等	イ(エン)ノコソウイタチ、イ(エン)ノコセチ(物の子節句)、イゴノコソウイタチ(犬殺しの朔日)	米粉	十二支	3月1日	並べる	茶の間の長押、障子の棧、床の間	3月9日	焼いて食べる	-	3月1日はエンコソウイタチ、3月9日はエンコロン(大賀)	吉川町史編さん委員会1996
上越市	高沢入	次郎の朔日	米粉	・十二支の動物(いぬころし)と山の神さんが傘をかぶって馬に乗っている姿の団子、または狐さまの背中に猿が乗った姿	2月1日	苞こに入れてあげる	床の間	2月9日	焼いて食べる	-	2月9日には赤飯を苞こにつめて、あきの方にさげ、鳥に食べさせる。	国学院大学文学部民俗学研究会1856
上越市	尾神	次郎の朔日とかドクビヒとか	団子	十二支の動物(ドクビ団子)	3月1日	飾る	床の間	3月9日	焼いて食べる	-	-	国学院大学文学部民俗学研究会1956

付表 新潟県内の犬の子朔日関連行事(4)

自治体 (現在)	地区	行事名称	素材	1次				2次			備考	文献
				製作物(名称)	期日	行為	場所	期日	行為	場所		
上越市	下川谷	インコロまたはインコツイタチ	米粉	十二支の動物	3月1日(月遅れ表示)	箱籠に収めて飾る	床の間	3月9日	子どもが焼いて食う	-	3月9日はインコロン	国学院大学文学会民俗学研究会1956
上越市	上関田	バククリ団子	カラコ餅	十二支の動物・蛋の形などをした団子	2月1日	列べる	長飯台	-	-	-	-	森谷1974
上越市	宮島	釈迦の涅槃	米粉	花や動物(犬、猿、鳩みなど)	3月15日、3月第2日曜日	供えてから撒く	寺	-	-	-	大光寺	筆者聞き取り2023
上越市	国田	犬づくり	米粉	十二支の動物	2月1日	-	-	2月9日	焼いたり煮たりして食べる	-	2月9日は山の神の日で犬おろし	横山1980
上越市	水野	いんの子祭り	-	十二支の動物	2月1日	-	-	3月9日	犬だけぶら下げる	庭の木	3月9日は山の神の日	横山1980
上越市	大賀	1日は太郎の日、2日は次郎の日	米粉	犬や鶏	3月1日	飾る	-	3月9日	焼いて食う	-	3月9日はエンコセチ	国学院大学文学会民俗学研究会1956
上越市	大賀	エンツクリ	米粉	犬や鶏(テンコロ)	3月1日	飾る	-	3月9日	焼いて食う 吊るす	-	3月9日はエンコ殺し	国学院大学文学会民俗学研究会1956
上越市	村屋	インコロマツリ	団子	十二支(バクビダンゴとも)	3月1日	-	-	3月9日	焼いて食べる	-	3月9日は山の神の祭の日	国学院大学文学会民俗学研究会1956
上越市	米山	-	-	-	-	-	-	3月9日	焼いて食べる	-	3月9日は山の神の日	国学院大学文学会民俗学研究会1956
上越市	儀明	インコツイタチ	粉の団子	犬など(十二支)	2月1日	-	-	-	-	-	-	森谷・西ほか1963
佐渡市	下久知	オンヤカサンの日	米粉	赤、緑、黄色で色付けし、猿や犬、下駄、鶏など	4月8日	供えて食べた	仏壇	-	-	-	-	新潟大学人文学部民俗学研究室2014
佐渡市	下久知	しんこ撒き	しんこ	犬・鳥・猿・兎等の動物	2月15日	供えてから撒く	寺、堂	-	-	-	-	中山・青木1938
佐渡市	夷	しんこ撒き	しんこ	犬・鳥・猿・兎等の動物	2月15日	供えてから撒く	寺、堂	-	-	-	-	中山・青木1938
佐渡市	大川	団子まき	米の粉	犬、猿、猿、兎など十二支にちなんだ動物。猫は作らない。(シンコ)	3月15日	まく	寺	-	-	-	-	池田2006
佐渡市	岩首	涅槃会(だんごまき)	シンコ	犬や鳥等	3月15日	供えて撒く	寺	-	-	-	万福寺	岩首郷土史編集委員会1992

## ミュージアム・マネジメントの実践（2）

### —新十日町市博物館の取り組み—

Practice of the museum management 2: Approach of the new Tokamachi City Museum.

石原 正敏<sup>1</sup>

ISHIHARA Masatoshi

新しい十日町市博物館（以下、「新博物館」）は、令和2（2020）年6月に開館した。新博物館の基本理念は、「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」である。十日町市の多様で豊かな自然と歴史・文化について、市民・来館者と共に探求し、保全・継承し、その価値を国内外に発信することをビジョンとしている。新博物館は生涯学習の拠点であるとともに、情報発信の拠点という機能を有する。展示は実物資料を中心とし、映像、音声、模型、参加体験型展示等の手法も取り入れ、誰もが親しめるわかりやすい展示となるように工夫した。また、解説文、音声ガイド、タッチパネル等の多言語化、ミュージアムショップ等のキャッシュレスに取り組んでいる。

本稿では、資料の収集、整理、保管（収蔵）、調査、研究という博物館機能の中から、資料の収集、実物資料や写真資料など資料貸出、博物館実習、職場体験などを取り上げ、史跡の保存と活用（火焰の都整備事業）の現状についてふれる。新博物館開館後の約3年間を振り返るとともに、関係データを再整理し、新博物館の現状と課題について検討することを本稿の目的とする。博物館活動においては「調査研究」、「情報発信と公開」が喫緊の課題であり、文化財の保存と活用においても、多くの課題がある。それらを踏まえ課題解決に向けた方向性や方法等について考察する。

#### 1. はじめに

十日町市博物館は、昭和54（1979）年の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに、基本理念に掲げた「市民生活に密着した実物教育機関として、いつでも誰でも見たり、調べたりできる、市民のための博物館」を目指して様々な活動を展開してきた（竹内2002ほか）。その中で、重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」（昭和61年指定）、同「十日町の積雪期用具3,868点」（平成3年指定）、火焰型・王冠型土器群をはじめとする国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点（附871点）」（平成11年指定）などが生み出されている。そして、平成26（2014）年から準備を始め、開館41年目となる令和2（2020）年6月

1日に新しい十日町市博物館（以下、「新博物館」）がオープンした。新博物館の基本理念は、「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」である。十日町市の多様で豊かな自然と歴史・文化について、市民・来館者と共に探求し、保全・継承し、その価値を国内外に発信することをビジョンとしている。新博物館は生涯学習の拠点であるとともに、情報発信の拠点という機能を有する。展示は実物資料を中心とし、映像、音声、模型、参加体験型展示等の手法も取り入れ、誰もが親しめるわかりやすい展示となるように工夫した。また、解説文、音声ガイド、タッチパネル等の多言語化、ミュージアムショップ等のキャッシュレスに取り組んでいる。

前稿では、旧博物館における40年の活動の歩みを振

1 十日町市博物館 〒948-0072 新潟県十日町市西本町一丁目448番地9

り返り、耐震改修・展示リニューアルから新博物館の建設への方向転換、新博物館の展示の特徴、開館後およそ1年半の運営にあたって留意したことなどについて紹介した(石原2022)。合わせて、雪文化三館提携や信濃川火焰街道連携協議会など広域連携や地域連携の取り組み、文化資源の魅力増進の取り組みなどについて紹介するとともに、課題と課題解決に向けた取り組み等について考察した。しかし、紙数に限りがあり、実物資料・写真資料など資料の貸出、博物館実習、職場体験などについては、取り上げることができなかった。新博物館開館後のおよそ3年間を振り返るとともに、関係データを再整理し、新博物館の現状と課題について検討することを本稿の目的とする。

## 2. 資料の収集・整理・保管について

### (1) 博物館の機能

博物館には、いわゆる「表の顔と裏の顔」がある。資料の収集、整理、保管(収蔵)、調査、研究という仕事は裏の顔であり、展示や教育普及などが表の顔である。新博物館においては、文化財課と博物館という2つの組織が、車の両輪のごとく日々の業務に取り組んでいる。博物館が新博物館と旧博物館の維持管理を所管している。文化財課では、市民の郷土に対する認識を深め、教育、学術及び文化の向上を図るため、松之山郷民俗資料館、笹山縄文館の維持管理及び公開を行っている。また、歴史、民俗及び考古に関する資料を収蔵するため、中里、高道山、川西、高倉の4つの文化財資料収蔵庫の維持管理を行っている。

### (2) 資料の収集と整理・保管

十日町市博物館資料の特徴は、埋蔵文化財資料を除く大部分が市民からの寄贈品によって成り立っていることである。特に民具資料は、ほぼ100%寄贈品である。多くは市民からの情報で、家の改築時などに職員が立ち会い、持ち主の了解を得て収集してきたもので、中にはわざわざ資料を持参して下さる市民も多い。博物館及び館外収蔵庫の収容量が限られているため、受け入れの可否については、同種の資料が既に一定の点数収蔵されていないか、展示及び貸出(使用)に耐えうる保存状況か、おおよその製作・使用年代がわかっているかなどを判断基準としている。資料の収集については表1、古文書等歴史資料の整理・保管については表2の通りである。

松之山郷民俗資料館、笹山縄文館、4つの文化財資料収蔵庫のそれぞれの概要は以下のとおりである。

#### ●松之山郷民俗資料館

所在地：十日町市松之山湯山264番地、設置根拠：十日町市資料館条例(平成17年4月1日 条例129号)、敷地面積：1,057㎡、延床面積：305.97㎡、運用開始：昭和52年5月1日

#### ●笹山縄文館

所在地：十日町市中条乙3081番地2、設置根拠：十日町市笹山縄文館条例(平成23年3月17日 条例11号)、敷地面積：894㎡、延床面積：458.71㎡、運用開始：平成23年4月1日

#### ●中里文化財資料収蔵庫

所在地：十日町市本屋敷丁65番地1、設置根拠：十日町市文化財資料収蔵庫条例(平成17年4月1日 条例130号)、敷地面積：1,587.54㎡、延床面積：526.15㎡、運用開始：平成17年4月1日

#### ●高道山文化財資料収蔵庫

所在地：十日町市白羽毛辰697番地、設置根拠：十日町市文化財資料収蔵庫条例(平成17年4月1日 条例130号)、敷地面積：2,621㎡、延床面積：346㎡、運用開始：平成26年10月1日

#### ●川西文化財資料収蔵庫

所在地：十日町市友重乙29番地1、設置根拠：十日町市文化財資料収蔵庫条例(平成17年4月1日 条例130号)、敷地面積：1,116㎡、延床面積：516.54㎡、運用開始：平成21年4月1日

#### ●高倉文化財資料収蔵庫

所在地：十日町市高倉戊876番地、設置根拠：十日町市文化財資料収蔵庫条例(平成17年4月1日 条例130号)、敷地面積：4,920㎡、延床面積：270.60㎡、運用開始：平成23年4月1日

中里文化財資料収蔵庫の収蔵スペースが不足し、埋蔵文化財資料の整理作業が困難になってきたため、高道山地区振興会、関係区長(高道山・朴木沢・宮沢・市之越・鷹羽・白羽毛・程島・東田尻)、地元集落住民および関係機関と協議を行い、同地区の高道山体育館を文化財資料収蔵庫として使用することになった。これに伴い、平成26(2014)年10月にスポーツ振興課から文化財課への所管替えを行った。また、収蔵庫として利用するため、施設改修と電灯修繕を行い、スチール棚(50台)を設置した。これにより、新たな収蔵スペースとして約230㎡を確保することができた。これとは別に、川西文化財資料収蔵庫にスチール棚(15台)を設置した(十

日町市博物館編2015)。施設の老朽化に伴う対応、令和元年度から休館中となっている松之山郷民俗資料館の取扱い及び文化財資料収蔵庫の統廃合、収蔵資料の台帳化などが課題である。

### (3) 調査・研究活動について

#### ①博物館は研究機関

博物館法の第1章第2条では、博物館の定義として、「博物館は歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集、保管、展示して、教育的配慮の下に公衆の利用に供すること」とある。博物館を教育機関とする所以はここにあり、この教育的配慮が現在の博物館事業の根底にある。教育機関としてのあり方とは別に、博物館法において博物館は研究機関であると規定している。博物館法の第3条第1項には、その四に博物館の事業として「博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと」を掲げ、博物館の調査研究の重要性を述べている。この専門的な調査研究の担い手は学芸員である。学芸員については、博物館法第4条第3項に、博物館の専門的職員としての学芸員の位置付けが規定され、同第4項には「学芸員は、資料の収集、保管、展示及び調査研究をはじめ専門的事項をつかさどる」として、博物館の専門的な調査研究が主として学芸員に委ねられていることが明記されている。しかし、新博物館においては、調査・研究活動の多くを文化財課が担っている。

#### (2) 古文書等歴史資料関係

文化財課文化財保護係では、古文書等歴史資料の調査・研究に継続的に取り組んでいる。平成24年度より十日町情報館が指定管理になったことに伴う組織改編により、古文書等歴史資料に関わる事業が文化財課文化財保護係へと移管された。①山内景行家写真資料の整理・活用、②蕪木元昭家文書（加賀屋文書）の調査・研究、③古文書等歴史資料の収集・整理の3つで構成され、これらは全て移管前からの継続事業である。

#### ①山内景行家写真資料の整理・活用

新潟県中越大震災での被災を機に、明治から100年の歴史を持つ「旧・山内写真館」の所蔵写真約48,000カットが十日町市に寄託された。これを受けて平成22年10月から、十日町市古文書整理ボランティアと十日町情報館が協働して、写真を活用できるようにするため、

写真1点1点の内容情報（時代・場所・状況など）を調査し、写真資料カードに記録する作業に取り組んできた。平成24年3月までの第1期・第2期整理作業の結果、約4,000枚の資料カードが記入されている。平成24年度より文化財課が主管となり、令和4年度は第13期整理作業が行われている。

写真整理作業の成果を公開し、さらなる情報収集を図るため、写真展を開催しており、令和4年度で第14回目となる。また、旧・山内写真館資料48,000点のうち3,047点の写真画像が、国の取組みである「ジャパンサーチ」に掲載され、令和3年9月から誰でも気軽に検索・閲覧ができるようになった。

#### ②蕪木元昭家文書（加賀屋文書）の調査・研究

新潟県中越大震災で被災し、十日町市に寄託された62,000点の蕪木元昭家（縮問屋加賀屋）の歴史資料整理保存作業は、3年の歳月をかけて十日町情報館と市民ボランティアが共同して実施し、平成19年11月に歴史資料目録全8巻がまとめられ、研究活用の基盤が整えられた。そこで、資料群の全体的な内容解明と理解を深める中核的な人材育成を図り、あわせて資料研究と活用のさらなる素地づくりを進めるため、平成20年6月、加賀屋文書研究会が設立された。研究会は月1回のペースで開催され、令和2年11月に第130回研究会が開催されている。

#### ③古文書等歴史資料の整理

十日町市への寄託・寄贈資料のうち、古文書等歴史資料については、燻蒸後、情報館収蔵庫に保管し、整理作業を行ってきた。令和元年度には、古文書等歴史資料を十日町情報館から旧博物館に移動し、新博物館2階の研究室で整理作業を行っている。

### 4. 新博物館の運営と教育普及・展示事業の概要

#### (1) 令和2年度

令和2年度の職員体制は、正職員12名、会計年度任用職員4名でスタートした。正職員は博物館4名、文化財課8名（課長、課長補佐を含む）であり、互いに兼務する形となっている。会計年度任用職員は、全て博物館の所属である。博物館には業務係、文化財課には文化財保護係、埋蔵文化財係の2係がある。土曜、日曜、祝休日については、正職員も当番勤務のローテーションに組み込まれる。年度途中異動のため、文化財課の正職員が

1名減となった。

展示事業では、新館オープン記念・夏季企画展「国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器のすべて」、新館オープン記念・秋季特別展「縄文の遺産－雪降る縄文と星降る縄文の競演－」、特設展示「昔の道具」、冬季企画展「マジヨリカお召と黒絵羽織」を開催した(表3)。普及事業のうち、博物館講座は縄文をテーマとして8月の土曜日(午後)に全3回シリーズで開催の予定であったが、首都圏における新型コロナウイルス感染症の再拡大を受け、急遽中止とした。そのほか、古文書入門講座、子ども博物館を開催した。令和2年度の入館者は、25,936名であった(十日町市博物館編2021b)。入館者の内訳は一般(有料)17,170名、一般(免除)3,982名、中学生以下4,784名であった。学校等団体は保育園6園、小学校28校、中学校17校、高校・専門学校・大学8校、子ども関連団体3団体であり、視察・見学等は107団体であった。令和2年度の決算額は44,010千円であるが、施設維持管理にかかる経費は19,255千円であった(表4、施設維持管理にかかる経費には会計年度任用職員の人件費を含み、正職員の人件費は除く)。

## (2) 令和3年度

令和3年度は正職員11名、会計年度任用職員4名の体制でスタートした。年度初めに決めた職務分掌にそって事業を進めたが、事業の進捗状況や業務量を勘案して適宜見直しを行った。展示事業では、新館オープン1周年記念・夏季特別展「形をうつすー文化財資料の新たな活用ー」、夏季企画展「形の移り変わりー縄文から現代まで」、新館オープン1周年記念・秋季特別展「岡本太郎が見て、撮った縄文」、特設展示「昔の道具」、冬季企画展「明石ちぢみと十日町小唄」を開催した(表5)。普及事業では、博物館講座「縄文を学ぶ」、古文書入門講座、子ども博物館を開催した。また、新館オープン1周年記念事業の一つとして、愛称募集を行い、「TOPPAKU」に決定した。令和3年度の入館者は、23,882名であった(十日町市博物館編2022)。入館者の内訳は一般(有料)14,957名、一般(免除)4,783名、中学生以下4,142名であった。学校等団体は保育園1園、小学校32校、中学校19校、高校・専門学校・大学9校、子ども関連団体2団体であり、視察・見学等は52団体であった。市内の小・中学校等に授業等での博物館利用の呼びかけをするとともに、新潟県博物館協議会の運営研究会(7月)、新潟県歴史資料保存活用連

絡協議会の歴史資料保存活用研修会(11月)などの受入れにも取り組んだ。令和3年度の決算額は58,814千円であるが、施設維持管理に係る経費は32,664千円であった(表6、施設維持管理にかかる経費には会計年度任用職員の人件費、物品販売仕入れ料を含み、正職員の人件費は除く)。

## (3) 令和4年度

令和4(2022)年度は正職員10名、会計年度任用職員5名の体制でスタートした。年度初めに決めた職務分掌にそって事業を進めたが、正職員1名が療養休暇となったため、事業の進捗状況や業務量を勘案して適宜見直しを行った。展示事業では、春季企画展「市民からの贈り物」、夏季企画展「里山の石仏ー松之山の祈りと信仰ー」、本ノ木・田沢遺跡群国史跡指定3周年記念・秋季特別展「縄文時代の始まりを探る」、特設展示「昔の道具」、冬季企画展「雪国の食べものがたり」を開催した(表7)。普及事業では、博物館講座「究極の雪国を学ぶ」、古文書入門講座、子ども博物館を開催した。

令和4年度の予算額は54,512千円であるが、施設維持管理に係る経費は35,865千円である(第8表、施設維持管理にかかる経費には会計年度任用職員の人件費、物品販売仕入れ料を含み、正職員の人件費は除く)。令和4年度の入館者は、26,319名である(令和5年3月12日現在)。市内の小・中学校等に授業等での博物館利用の呼びかけをするとともに、議会等の行政視察、県内外の修学旅行生はもとより、(株)クラブツーリズム「歴史への旅 長野・新潟の縄文遺跡」・「八ヶ岳山麓の縄文遺跡」、新潟交通の旅くれよん、塩沢江戸川荘、しばたミュージアム設立推進市民会議、鮎川義塾新潟校、青山きもの学院などの団体受入れに積極的に取り組んだことにより、入館者数は令和2年度、3年度を上回った(表9)。PDCAサイクルによる事業の総括・検証、見直しを行う必要があり、さらなる誘客・集客及びPRの強化などが課題である。

## (4) 実物資料及び写真資料の貸出

前稿でも触れたように、平成4(1992)年に重文・火焰型土器No1が「日本の古代展」(アメリカ ワシントンD.C.、アーサー・サックラー美術館)へ出品された。その後、平成10(1998)年には重文・火焰型土器No1が「縄文展」(フランス パリ、日本文化会館)に、平

成13(2001)年には国宝・火焰型土器No.1が「古代日本の聖なる美術展」(イギリス ロンドン、大英博物館)に出品された。これら資料貸出は、博物館の重要な機能の一つである。平成26(2014)年度から令和4(2022)年度までの実物資料の貸出は別表のとおりである(表10～表12)。また、同期間の写真資料の貸出は別表のとおりである(表13～表15)。

## 5. 博物館実習・職場体験について

博物館法の第1章第2条では、博物館の定義として、「博物館は歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集、保管、展示して、教育的配慮の下に公衆の利用に供すること」とある。博物館を教育機関とする所以はここにあり、この教育的配慮が現在の博物館事業の根底にある。教育機関としてのあり方とは別に、博物館法において博物館は研究機関であると規定している。博物館法の第3条第1項には、その四に博物館の事業として「博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと」を掲げ、博物館の調査研究の重要性を述べている。この専門的な調査研究の担い手は学芸員である。学芸員については、博物館法第4条第3項に、博物館の専門的職員としての学芸員の位置付けが規定され、同第4項には「学芸員は、資料の収集、保管、展示及び調査研究をはじめ専門的事項をつかさどる」として、博物館の専門的な調査研究が主として学芸員に委ねられていることが明記されている。

十日町市博物館では、旧博物館はもとより、新博物館においても、博物館実習生の受入れを行っている(表16)。以前は大学3年生でも受入れ可としていたが、平成15年頃からは博物館学概論を履修済みの大学4年生というハードルを設けている。5名定員で、十日町市及びその周辺出身の大学生を優先的に受け入れ、担当学芸員を中心に、学芸員が手分けをして6日間の実習を行っている。学芸員資格は、大学において設置された学芸員資格課程の単位を修得すれば、当該科目の国家試験が免除される。また、現状では学芸員資格を有していても学芸員の職に就ける者は極めて少ない。一方で、資格社会といわれるなか、何らかの資格を持ちたいとその取得に腐心する学生も少なくない。国家試験の導入とともに、インターン制度など少なくとも数ヶ月の研修を課して、学芸員としての資質・適性を判断する機会を与えるなどの厳格で抜本的な措置を講ずるべきとの声も多く聞かれる。6日間の実習で、即戦力となる学芸員を育てるのは

まず無理であることは十分に認識しているが、地域博物館の一つの使命として人材育成、後継者育成の観点から、今後も継続的に取り組んでいく必要があると考えている。なお、中学生、高校生の職場体験については、表16備考欄のとおりである。「博物館の理解者を増やす」ことにつながっているか、検証が必要であることは言うまでもない。

## 6. 史跡の保存と活用—火焰の都整備事業—

### (1) 事業概要

火焰の都整備事業は、平成11(1999)年に笹山遺跡出土品が新潟県初の国宝に指定されたことを機に、出土地である笹山遺跡を中心とした地域を「火焰の都」として、その保護及び交流・体験の場の創出による活用を図ろうとする「火焰の都計画」が提案されたことに端を発している。平成14(2002)年には、その具体的実現を目指し「国宝館・火焰の都整備事業基本計画」が立案されるが、財政事情等から具体的な進捗をみることなく経過していた。市町村合併後の平成19(2007)年度より事業名を「国宝館・火焰の都整備事業」から「火焰の都整備事業」に改め、さらに平成20(2008)年度からは、国宝が新市住民の共有財産であることに立脚し、新市としての一体感を醸成するため、本事業は合併特例債適用事業として取り組むことになった。合併特例債適用事業として取り組む際の基本理念及び目的は、前述の「国宝館・火焰の都整備事業基本計画」を踏襲するものである。国宝館については、当面、諸条件が整うまで凍結するものとし、事業の進捗に当たっては、主に中条地区振興会を窓口に関元住民との協働作業を基本的なスタンスとし、事業をすすめてきた。以下に、平成27年度までの年度ごとの主な事業を列記する(十日町市教育委員会文化財課編2017)。

#### ①平成20年度(計5,629,050円)

・笹山遺跡ガイダンス施設給排水衛生設備等改修工事 3,739,050円(有)技工住設) / 事業計画区域用地測量業務委託 1,890,000円(株)十日町測量 ※測量範囲7,200㎡)

#### ②平成21年度(計17,701,757円)

・笹山遺跡広場整備第1次工事 1,281,000円(有)福島土木) / 笹山遺跡広場芝張り工事 1,292,550円(株)恒樹園新潟) / 笹山遺跡広場整備第2次工事

1,186,500円(NPO法人笹山縄文の里) / 笹山遺跡広場芝張第2次工事 409,000円(NPO法人 笹山縄文の里) / 笹山縄文館における展示物の作成及び設計委託 415,800円(NPO法人 笹山縄文の里) / 笹山遺跡広場竪穴式住居実施設計委託 315,000円(NPO法人 笹山縄文の里) / 事業計画区域用地測量業務委託 1,407,000円(株)十日町測量 ※測量範囲4,100㎡ / 事業計画用地取得 9,573,661円(H20繰越分 4,909.85㎡、H21分 1,275.64㎡) / 補償 51,996円(物件移転及び立木売買) / 笹山遺跡サイン修繕工事 1,769,250円(田順アート・株谷内製材※合併特例債適用外)

### ③平成22年度(計5,596,500円)

・ 笹山遺跡広場竪穴式住居設置委託 3,454,500円(NPO法人 笹山縄文の里) / 竪穴式住居屋根被覆シート及び入口扉作製委託 252,000円(NPO法人 笹山縄文の里) / 事業計画区域用地測量業務委託 1,890,000円(株)十日町測量 ※測量範囲5,500㎡)

### ④平成23年度(計10,286,850円)

・ 笹山遺跡広場竪穴式住居実施設計委託 294,000円(NPO法人 笹山縄文の里) / 笹山遺跡広場整備(竪穴式住居盛土)工事 276,150円(NPO法人 笹山縄文の里) / 笹山遺跡広場竪穴式住居設置委託 4,466,700円(NPO法人 笹山縄文の里) / 笹山縄文館改修工事 1,260,000円(有)技工住設) / 笹山縄文館外壁改修工事 3,496,500円(株)谷内製材) / 笹山縄文館外壁設計・改修委託 493,500円(NPO法人 笹山縄文の里)

### ⑤平成24年度(計14,683,113円)

・ 笹山給排水設備移転改修工事設計委託 484,050円(SOメンテナンス) / 笹山給排水設備移転改修工事 7,518,000円(株)拓越) / 笹山縄文館電灯引込口変更工事 327,600円(株)後藤電気) / 笹山縄文館改修工事 656,040円(南雲木工所) / 事業計画用地取得 5,001,860円(H23繰越分 3,144.87㎡) / 補償 695,563円(H23繰越分 物件移転及び立木売買)

### ⑥平成25年度

・ 事業計画用地取得 1,549,329円(H24繰越分 911.37㎡)

### ⑦平成26年度

・ 事業計画用地取得 1,596,912円(H25繰越分 939.36㎡) / 補償 324,756円(H25繰越分 立木移転補償)

### ⑧平成27年度

・ 事業計画用地取得 970,479円(H26繰越分 570.87㎡)

## (2) 現状と課題

平成14(2002)年に策定された「国宝館・火焰の都整備事業基本計画」において、基本計画の目的・理念について「笹山遺跡とその出土品は、貴重な歴史的遺産であり、それらを保存し、人々に広く公開し活用をはからなければならない。その拠点として国宝館を中心とする「火焰の都」を整備し、地域芸術文化の振興と交流人口の増大を図り、縄文芸術の里・十日町をめざす」としている。また、基本方針については「現存している縄文時代以来の歴史的景観を保全し、さらに長期計画において段階的に縄文植生の育成を図り、自然生態系との調和を基本とした計画とする。具体的な整備基本方針は、①国宝土地である笹山遺跡の保存とスポーツ施設との調和ある整備、②各種調査成果に基づき、遺跡の特性を活かした環境整備と施設整備、③学校教育、社会教育と連携した複合的な学習体験施設の整備」とある。

これまでの経緯と主な事業については上記のとおりである。平成27(2015)年度以降においても事業計画用地取得に向けた取組みを中心に行っている。代替地などの問題もあり、計画地の土地買収が思うように進捗していないが、地権者及び関係者の同意を得て、早期に買収が完了できるよう引き続き努力していかなければならない。また、平成23(2011)年4月からは、「市民スポーツハウス」を遺跡のガイダンス施設及び地元振興会、NPO法人等の活動拠点としての機能を持たせた「笹山縄文館」へと転用する条例を施行し、現在に至っている。

一方、平成26(2014)年12月市議会の一般質問において、「笹山遺跡の市史跡指定地の取得は平成25年度末で64.1%を取得した。新博物館構想もあり、笹山遺跡に国宝館を建設することは経費的、人的な面から難しい。新博物館で国宝の展示と管理を行い、笹山遺跡は、見る、感じる、触れるなど出土遺跡ならではの活動を展開していきたい」という趣旨の答弁が行われ、国宝

館凍結の状況に変化はない。火焰の都整備事業はもとより、国宝出土地・笹山遺跡学術調査事業、縄文体験プログラム事業など、これまで進めてきた事業あるいは現在進行中の事業を総括・検証する必要がある、笹山縄文館が築40年を迎えていることや基本計画策定時に比べ社会情勢や財政状況等がかなり変化していることをふまえ、新たな基本計画の策定が急務である。

## おわりに

当時、悠久山にあった長岡市立科学博物館で火焰土器を初めて見たのは、約50年前のことであった。強い衝撃を受け、その後、中学校の図書室で『先史時代と長岡の遺跡』と出会い、考古学に興味を持つ契機となった。大学院終了後、縁あって十日町市博物館に就職し、笹山遺跡をはじめ幅上遺跡、野首遺跡など火焰型土器出土遺跡の発掘調査、整理調査、普及啓発に携わる機会を得た。笹山遺跡出土品の重要文化財指定や国宝指定に関わることができたのも幸いなことであった。私事ではあるが令和5(2023)年3月末をもって定年退職を迎える。しかし、4月以降も再任用職員として、微力ながら博物館活動の推進に努めていきたい。

紙数に限りがあるため、調査研究活動における文化財課と博物館の関係性、文化財課の文化財保護と埋蔵文化財の関係性については、稿を改めて検討の機会をもちたい。また、引用・参考文献の多くを割愛した。お許しいただきたい。(2023年3月10日脱稿)

## 謝辞

これまでの間に、阿部恭平、阿部敬、今井哲哉、小熊博史、小野昭、貝瀬香、笠井洋祐、川村知行、木村英祐、久保禎子、小林隆幸、小林達雄、小林徳、佐々木榮一、佐藤信之、佐藤雅一、眞田彦彦、菅沼亘、竹内俊道、高木公輔、高橋由美子、立木宏明、角田由美子、中村由克、新田康則、橋本博文、原田昌幸、林真子、平山育夫、廣野耕造、星野元一、松村実、宮尾亨、山田正毅の各氏をはじめ、多くの方々よりご指導・ご教示をいただいた。また、故人となられたが、甘粕健、石澤寅義、今福利恵、大島伊一、岡田稔、上村政基、小島俊彰、小林宏行、佐野良吉、島田靖久、須藤重夫、滝沢秀一、田村達夫、土肥孝、富澤孝之、中澤幸男、波形卯二、樋熊清治、廣田永二、藤本強、丸山克己の各氏から種々ご教示をいただいた。文末ではあるが記して厚くお礼申し上げる。

## 引用・参考文献

佐野良吉 1982『随想妻有郷—十日町地方の歴史と民俗—』国書刊行会  
石原正敏 編 1988『ガイドブック 十日町市の遺跡』十日町市博物館

佐野良吉 1990『妻有郷の歴史散歩』国書刊行会  
阿部恭平・竹内俊道 編 1994『図説 越後アンギン』十日町市博物館  
菅沼亘 編 1996『縄文の美—火焰土器の系譜—』十日町市博物館  
石原正敏・竹内俊道 編 1996『火焰土器研究の新視点』十日町市博物館  
石原正敏・竹内俊道 編 2000『火焰型土器をめぐる諸問題—笹山遺跡の謎に迫る—』十日町市博物館  
(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 2000『新潟の遺跡 先人からのメッセージ』新潟日報事業社  
竹内俊道 2002『地域に根ざした博物館活動を目指して』『博物館研究』第37巻第6号 日本博物館協会  
竹内俊道・林真子 編 2002『雪文化三館提携10周年記念企画 北越雪譜と魚沼の風土』十日町市博物館友の会  
美濃加茂市民ミュージアム 2004『博学連携フォーラム～120cmから見た博物館～』<レジュメ集>  
佐藤雅一 2007『地域造りとしての文化財の保護と活用』『魚沼新報』<ダイジェスト版>  
橋本博文・佐藤雅一・渡邊朋和・石原正敏 2007『いま、遺跡がおもしろい! 遺跡に集う元気な仲間たち～遺跡の活用を考える～』文化財保存新潟県協議会第9回大会<レジュメ集>  
高木公輔・藤原敏秀・石原正敏・佐藤雅一 2007『文化財の保護と活用』魚沼地域文化財保護行政懇談会<レジュメ集>  
山本暉久・石原正敏・会田進・長沢宏昌 2008『世界の文化遺産、中部日本縄文遺跡の魅力語る』縄文王国山梨実行委員会<レジュメ集>  
新潟県立歴史博物館 2009『火焰土器の国 新潟』新潟日報事業社  
安高啓明 2014『歴史の中のミュージアム—驚異の部屋から大学博物館まで—』昭和堂  
にいがた文化の記憶館 2015『みんなで伝えよう にいがた文化の記憶』  
石原正敏 2010『豪雪地帯に生まれた文化—火焰土器の世界—』『知っておきたい新潟県の歴史』新潟日報事業社  
十日町市博物館 編 2015『十日町市博物館 年報 第1号』  
十日町市教育委員会文化財課 編 2015『文化財課年報16』  
石原正敏 2015『「火焰型土器のクニ」から—笹山遺跡の土器、土製品や石器類』『東北学05』はる書房  
十日町市博物館 編 2016『十日町市博物館 年報 第2号』  
十日町市博物館 編 2017『十日町市博物館 年報 第3号』  
石原正敏 2018『国宝「火焰型土器」の世界 笹山遺跡』新泉社  
十日町市教育委員会文化財課 2018『十日町市歴史文化基本構想』新潟県十日町市  
十日町市博物館 編 2018『十日町市博物館 年報 第4号』  
十日町市博物館 編 2019『十日町市博物館 年報 第5号』  
十日町市博物館 編 2020a『国宝 笹山遺跡出土品のすべて (改訂版)』  
十日町市博物館 編 2020b『十日町市博物館 要覧』  
十日町市博物館 編 2020c『十日町市博物館 年報 第6号』  
岩城卓二・高木博志 編 2020『博物館と文化財の危機』人文書院  
十日町市博物館 編 2021a『常設展示案内ガイド』  
十日町市博物館 編 2021b『十日町市博物館 年報 第7号』  
新潟県博物館協議会 2021『新潟県博物館協議会加盟館一覧』  
十日町市博物館 編 2022『十日町市博物館 年報 第8号』  
石原正敏 2022『ミュージアム・マネジメントの実践(1)—新十日町市博物館の取り組み—』『十日町市博物館研究紀要』1

表1 資料の収集(平成26年度～令和3年度)

年度	件数	資料名
平成26年度	33	ショイダル、餅ののし板ほか、弓張り、ガリ版、オヒキガネほか、チョウナほか、雪まつりパッケージたばこ、中国紙幣ほか、おさなみ織の着物ほか、膳碗ほか、妙高山関山神社の火祭りのワラジ、着物の端切れ、バケツ、吸物椀ほか、蓄音機ほか、紋付の着物ほか、信濃川で使用したイカリほか、古書籍・千人針ほか、越後縮のミズトオシほか、写真データほか、帝国日本里程細図、一斗マスほか、ネクタイ、旧滝文資料、金子借用証文などの古文書、刀ほか、羽織ほか、旧睦織物で使用していた首里織帯の紋柱、中條平作家文書(仙田)、藕糸織、カケヤほか など
平成27年度	34	化粧まわしほか、タヌキ剥製ほか、軍隊手帳ほか、棒秤、香炉、漆塗り椀ほか、更新供養道具ほか、天秤ばかりほか、雪下駄、従軍記章之證ほか、古書籍ほか、昔の洗濯機ほか、舟箱形シャトルほか、土地名寄帳ほか、『越能山都登』復刻版ほか、コモヅチほか、ダイヤル式電話機ほか、昔の着物ほか、電気コタツほか、旧中里村関係古文書、昔の教科書ほか、掛軸「墨竹図」、浪曲のレコード、古文書・巻物、大賀一郎博士関連資料、蓄音機ほか、農家組合関係文書 など
平成28年度	29	農具ほか、昔の紙幣、昔のカメラ、足踏みミシンほか、ユキノコギリ、和紙の鯉のぼり、出征旗、ケシツボほか、着物、桶屋道具、頼母子講資料、昔の電気コタツ、日本刀ほか、箆笥、スクリーン型枠、掛軸、スゲボシ、尋常小学校唱歌テープ、旗、ガス炊飯器、シュロボシほか、屏風、古文書、明石ちぢみサンプル帳、茅葺民家写真、写真アルバムほか など
平成29年度	21	イトマスほか、棒バカリ、赤岩小学校歌資料、マジョリカお召ほか、昔の新聞、梵字Tシャツ、岩石・鉱物標本、ジサイカギほか、屏風、硯ほか、巾治家資料、モンペほか、雪ゲタほか、古文書・古典籍、書籍、ザグリ機ほか、版木ほか、駕籠ほか など
平成30年度	18	マジョリカお召ほか、ちゃぶ台ほか、庚申講道具、黒絵羽織ほか、古文書、倉俣小学校歌楽譜、来箱ほか、川西郷土読本ほか、火焰型土器模造品、古書籍ほか、ヤバサミ、昔の写真、生糸、掛軸、携帯白黒テレビ、紡織具 など
平成31年・令和元年度	11	着物(しぼり紺地長着、銘仙ほか)、庚申講道具、昔のステレオ、六角行燈、古文書 など
令和2年度	36	スッポン、コスギ、ロウソクタテ、ゼンマイ採り用着物、道仕切りの木札、原町五旗旗、松代地域の民話音声資料(カセットテープ)などの民俗・民具資料、黒絵羽織、紅型・小紋等の型染め資料、マジョリカお召・見本帳などの着物資料、雪景色・文化財・市内風景・祭りなどのポジフィルム及びプリントなど写真資料、飯山線開設関係文書・古文書・古典籍などの歴史資料、十日町小唄水墨画(中山晋平書・水谷八重子画)及び掛軸類など美術資料、十日町森林総合研究所観測記録及び中里養魚センター観測記録などの記録資料 など
令和3年度	116	民具資料(文政十三年間棟札、川舟の櫂、イカリ、シュロボシ、スカリ、スッペ、高下駄、炭火アイロン、蓄音機、SP盤レコード、コリントゲームなど)、十日町産地の着物資料(十日町明石ちぢみ、マジョリカお召、黒絵羽織、縫取縮緬など)、芸能関係資料(上川手歌舞伎上演用具、中尾〇面神楽上演用具)、美術資料(永井白濁筆・十日町小唄歌詞掛軸、中山龍次筆・諏訪大神掛軸、明屋有照画賛・太子講掛軸)、古文書等歴史資料(安養寺・古澤家資料、上野・星名家資料、上蝦池・庄屋家資料、清水村・庄屋家資料など)、昔の写真及び写真画像CD(十日町雪まつりなど)、十日町森林研究所研究員資料(記録写真・日記・書簡等一括) など

表2 資料の整理・保管(平成31年・令和元年度～令和3年度)

年度	資料群名	資料の内容と整理方法
平成31年・令和元年度	松沢家、小川家(ともに十日町地域)、桑原家、山本家(ともに中里地域)ほか諸家資料(計3,667点)	江戸時代からの古文書、絵図、古典籍等の目録化のための資料カードを記入し、データベース入力実施。資料は中性紙保存箱に収納し防虫剤を入れて保管。
	山内家写真資料	市民ボランティアと協働して旧・山内写真館所蔵の明示から平成にかけての写真資料(約48,000点)に関する内容情報を調査・収集・整理し、第10期整理期間(R1.5.9～R2.2.2)において約6,000点の写真資料カードを記入。第11回山内写真館資料写真展を企画・展示・運営。
令和2年度	桑原家(塩ノ又)、柳家(麻畑)、諸家資料ほか11家文書(計1,147点)	近世から近代の古文書・絵図・古典籍等の目録化のための資料カードを記入し、データベース入力実施。資料は中性紙保存箱に収納し防虫剤を入れて保管。
	山内家写真資料	市民ボランティアと協働して旧・山内写真館所蔵の明示から平成にかけての写真資料(約48,000点)に関する内容情報を調査・収集・整理し、第11期整理期間(R2.7.9～R3.3.25)において約3,000点の写真資料カードを記入。第12回山内写真館資料写真展を企画・展示・運営。
令和3年度	安養寺・古澤家、川治・松沢家未整理分、新光寺・佐藤家未整理分ほか諸家資料(約1,800点)	近世から近代の古文書・絵図・古典籍等の目録化のための資料カードを記入し、データベース入力実施。資料は中性紙保存箱に収納し防虫剤を入れて保管。
	山内家写真資料	市民ボランティアと協働して旧・山内写真館所蔵の明示から平成にかけての写真資料(約48,000点)に関する内容情報を調査・収集・整理し、第12期整理期間(R3.6.24～R4.3.24)において約1,000点の写真資料カードを記入。第13回山内写真館資料写真展を企画・展示・運営。
	古文書・着物資料の保管	防虫剤・除湿剤を投入し保管。

表3 令和2年度 博物館教育普及・展示事業一覧

事業	内容	日時(期間)	会場	参加者数
夏季企画展	新館オープン記念「国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器のすべて」(日本博参画事業)	6/1(月)～8/23(日)	博物館 企画展示室	9,645
秋季特別展	新館オープン記念「縄文の遺産ー雪降る縄文と星降る縄文ー」	9/26(土)～11/8(日)	博物館 企画展示室	6,097
	記念講演会「日本美術史における縄文的なるもの」 講師：山下裕二氏(明治学院大学文学部教授)	10/17(土)	情報館 視聴覚ホール	57
特設展示	「昔の道具」	12/19(土)～1/24(日)	博物館 企画展示室	
冬季企画展	「マジョリカお召と黒絵羽織」	2/13(土)～3/28(日)	博物館 企画展示室	2,973
博物館講座	「縄文を学ぶ」	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止		
	①「縄文造形を楽しむー縄文時代の社会交流ー」 講師：井出浩正氏(東京国立博物館 教育講座室長)			
	②「土器から縄文食を探る」 講師：宮内信雄氏(東京大学総合研究博物館 学術専門職員)			
	③「土器の出現と縄文時代のはじまり」 講師：堤 隆氏(明治大学黒耀石研究センター 客員研究員)			
古文書入門講座	講師：林 悦郎氏(博物館友の会・古文書研究グループ)	6～3月(全17回)	博物館 講堂	10 (受講生)
子ども博物館	①「鶏頭冠突起作り」	8/1(土)	博物館 体験学習室	14 (全2回)
	②「縄文クッキーを作ってみよう」	12/12(土)	博物館 体験学習室	

表4 令和2年度歳出予算

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節		当初予算額	補正額(流用含む)	補正後予算額	決算額
1. 報酬	会計年度任用職員報酬、博物館協議会委員報酬	6,559	80	6,639	6,538
3. 職員手当等	会計年度任用職員手当	257	0	259	258
7. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	530	△150	380	0
8. 旅費	費用弁償・普通旅費	680	△99	581	241
10. 需用費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	15,857	920	18,515	15,273
11. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	3,030	80	3,365	2,780
12. 委託料	館維持管理委託・収蔵資料燻蒸業務委託ほか	13,809	8,362	19,347	17,092
13. 使用料及び賃借料	テレビ受信料・コピー機リース・収蔵品管理システム利用・自動車レンタル料	733	0	733	660
14. 工事請負費	施設改修工事	0	303	578	550
17. 備品購入費		0		297	268
18. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46	46
		41,501	9,496	50,997	44,010

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事業名	当初予算額	補正額(流用含む)	補正後予算額	決算額
一般経費	5,141	131	5,272	5,125
旧博物館施設維持管理経費	2,949	0	2,949	2,613
博物館施設維持管理経費(除排雪経費含む)	18,972	1,036	20,008	19,255
教育普及・展示事業	5,039	△467	4,572	4,471
博物館開館事業	4,571	△1,445	3,126	184
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	3,996	△194	3,802	3,587
縄文文化発信事業	833	0	833	512
文化観光拠点施設キャッシュレス化事業(文観計画・補助)	0	2,840	2,840	1,778
無形文化資源データ(映像等)化事業(文観計画・補助)	0	6,996	6,996	5,988
十日町市博物館所蔵文化遺産体験事業(文観計画・補助)	0	599	599	500
	41,501	9,496	50,997	44,010

表5 令和3年度 博物館教育普及・展示事業一覧

事業	内容	日時(期間)	会場	参加者数
夏季特別展	新館オープン1周年記念「形をうつすー文化財資料の新たな活用ー」(日本博参画事業)	6/1(月)~7/4(日)	博物館 企画展示室	4,377
夏季企画展	「器の移り変わりー縄文から現代までー」	7/27(火)~8/29(日)	博物館 企画展示室	2,562
秋季特別展	新館オープン1周年記念「岡本太郎が見て、撮った縄文」	10/2(土)~11/14(日)	博物館 企画展示室	4,804
	記念イベント「岡本太郎と縄文を語る」 講師：石井 匠氏 (国立歴史民俗博物館研究員) 山下裕二氏 (明治学院大学文学部教授)	10/17(土)	情報館 視聴覚ホール	60
特設展示	「昔の道具」	12/19(土)~1/24(日)	博物館 企画展示室	
冬季企画展	「明石ちぢみと十日町小唄」	2/13(土)~3/28(日)	博物館 企画展示室	2,973
博物館講座	「縄文を学ぶ」			
	①「縄文造形を楽しむー縄文時代の社会交流ー」 講師：井出浩正氏 (東京国立博物館 教育講座室長)	8/7(土)	博物館 講堂	61 (全3回)
	②「土器から縄文食を探る」 講師：宮内信雄氏 (東京大学総合研究博物館 学術専門職員)	8/21(土)	博物館 講堂	
③「土器の出現と縄文時代のはじまり」 講師：堤 隆氏 (明治大学黒耀石研究センター 客員研究員)	8/28(土)	博物館 講堂		
古文書入門講座	講師：林 悦郎氏 (博物館友の会・古文書研究グループ)	6~3月 (全17回)	博物館 講堂	12 (受講生)
子ども博物館	①「鶏頭冠突起作り」	8/22(日)	博物館 体験学習室	8 (全2回)
	②「縄文クッキーを作ってみよう」	12/18(土)	博物館 体験学習室	

表6 令和3年度歳出予算

歳出予算 (単位：千円、千円未満切り上げ)

節		当初予算額	補正額(流用含む)	補正後予算額	決算額
1. 報酬	会計年度任用職員報酬、博物館協議会委員報酬	6,763	0	6,763	6,614
3. 職員手当等	会計年度任用職員手当	415	0	415	357
7. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	629	0	629	431
8. 旅費	費用弁償・普通旅費	558	64	622	339
10. 需用費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	23,712	749	24,461	22,602
11. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	4,433	0	4,433	3,934
12. 委託料	館維持管理委託・収蔵資料燻蒸業務委託ほか	24,420	△749	23,671	22,038
13. 使用料及び賃借料	テレビ受信料・機器・車両リース・収蔵品管理システム利用料	1,166	0	1,166	662
14. 工事請負費	旧博物館電源低圧化工事	1,770	0	1,770	1,762
18. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46	46
26. 公課費	重量税	33	0	33	33
		63,945	64	64,009	58,814

事業別歳出予算内訳 (単位：千円、千円未満切り上げ)

事業名	当初予算額	補正額(流用含む)	補正後予算額	決算額
一般経費	245	0	245	158
旧博物館施設維持管理経費	3,615	△230	3,385	1,586
博物館施設維持管理経費(除排雪経費、コロナ対策経費含む)	34,917	294	35,211	32,664
教育普及・展示事業(特別展示会事業含む)	8,244	0	8,244	7,614
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	2,954	0	2,954	2,863
縄文文化発信事業	468	0	468	276
文化観光拠点施設キャッシュレス化事業(文観計画・補助)	13,502	0	13,502	11,894
	41,501	64	64,009	58,814

表7 令和4年度 博物館教育普及・展示事業一覧

事業	内容	日時(期間)	会場	参加者数
春季企画展	「市民からの贈り物」	4/29(月)～6/5(日)	博物館 企画展示室	3,771
夏季企画展①	「里山の石仏ー松之山の祈りと信仰ー」	7/23(土)～8/28(日)	博物館 企画展示室	3,630
夏季企画展②	雪文化三館提携30周年記念特別展「モノと芸術とヒトが織りなす雪文化」	9/6(火)～9/25(日)	博物館 エントランスホール	
秋季特別展	本ノ木・田沢遺跡群国史跡指定3周年記念「縄文時代の始まりを探る」	10/1(土)～11/13(日)	博物館 企画展示室	4,593
	記念講演会「信濃川流域の縄文時代草創期遺跡群」 講師：谷口康浩氏(國學院大學文学部 教授)	10/15(土)	情報館 視聴覚ホール	45
特設展示	「昔の道具」	1/4(火)～1/29(日)	博物館 企画展示室	
冬季企画展	「雪国の食べものがたり」	2/18(土)～3/26(日)	博物館 企画展示室	●
博物館講座	「究極の雪国を学ぶ」			
	①「食から見る雪国の暮らし」 講師：大楽和正氏(新潟県立歴史博物館 主任研究員)	6/4(土)	博物館 講堂	46 (全3回)
	②「防寒着としての角巻」 講師：岩野笙子氏(新潟県民俗学会 理事)	6/18(土)	博物館 講堂	
③「雪国の建築」 講師：平山育男氏(長岡造形大学 教授)	7/2(土)	博物館 講堂		
古文書入門講座	講師：林悦郎氏(博物館友の会・古文書研究グループ)	6～11月(全12回)	博物館 講堂	延109 (受講生)
子ども博物館	①「プラ板キーホルダー作り」	8/20(土)	博物館 体験学習室	14 (全2回)
	②「ミニチュア土器づくり」	12/17(土)	博物館 体験学習室	

表8 令和4年度歳出予算

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節		当初予算額	補正額(流用含む)	補正後予算額	決算額
1. 報酬	会計年度任用職員報酬、博物館協議会委員報酬	6,826	0	6,826	
3. 職員手当等	会計年度任用職員手当	812	0	812	
7. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	371	0	371	
8. 旅費	費用弁償・普通旅費	432	44	484	
10. 需用費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	23,938	2,353	26,291	
11. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	4,406	△14	4,392	
12. 委託料	館維持管理委託・収蔵資料燻蒸業務委託ほか	17,018	0	17,018	
13. 使用料及び賃借料	テレビ受信料・機器・車両リース・収蔵品管理システム利用料	663	146	809	
18. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金	46	0	46	
		54,512	2,529	57,041	0

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事業名	当初予算額	補正額(流用含む)	補正後予算額	決算額
一般経費	216	0	216	
旧博物館施設維持管理経費	1,218	228	1,446	
博物館施設維持管理経費(除排雪経費、コロナ対策経費含む)	35,865	2,309	38,174	
教育普及・展示事業(特別展示会事業含む)	5,809	0	5,809	
資料収集・調査研究・資料保存対策事業	2,474	0	2,474	
縄文文化発信事業	330	△8	322	
文化観光拠点施設キャッシュレス化事業(文観計画・補助)	8,600	0	8,600	
	54,512	2,529	57,041	0

表9 旧博物館と新博物館の入館者数の比較

年 度	大 人		小 人		合 計 ( ) 内団体数	備 考
	個人	団体 (数)	個人	団体 (数)		
昭和54 (1979)						
昭和55 (1980)						
昭和56 (1981)	7,401	8,215 (235)	3,387	1,997 (43)	21,000 (278)	
昭和57 (1982)	10,309	6,108 (226)	3,875	2,841 (56)	23,133 (282)	
昭和58 (1983)	10,291	5,651 (205)	2,854	2,478 (52)	21,274 (257)	
昭和59 (1984)	11,396	7,574 (205)	2,383	2,273 (34)	23,626 (239)	
昭和60 (1985)	7,266	5,559 (179)	3,120	1,370 (29)	17,275 (208)	
昭和61 (1986)	8,787	5,700 (205)	6,755	3,551 (57)	24,793 (262)	
昭和62 (1987)	7,434	6,637 (219)	3,904	2,030 (40)	20,005 (259)	
昭和63 (1988)	10,274	4,718 (152)	3,207	1,869 (35)	20,068 (187)	
平成元 (1989)	11,442	3,850 (123)	3,538	1,972 (41)	20,802 (164)	
平成2 (1990)	10,166	3,075 (126)	2,191	1,116 (22)	16,548 (148)	
平成3 (1991)	9,899	5,837 (189)	3,297	1,819 (38)	20,852 (227)	
平成4 (1992)	10,460	4,908 (126)	3,099	2,138 (46)	20,605 (172)	
平成5 (1993)	10,074	4,958 (134)	3,268	1,943 (45)	20,243 (179)	
平成6 (1994)	9,678	2,889 (94)	2,956	1,623 (41)	17,146 (135)	
平成7 (1995)	11,979	3,819 (115)	2,365	1,879 (53)	20,042 (168)	
平成8 (1996)	11,255	4,592 (124)	2,011	1,598 (40)	19,456 (164)	
平成9 (1997)	12,890	4,467 (130)	1,641	2,258 (62)	21,256 (192)	
平成10 (1998)	13,718	2,985 (85)	1,803	1,350 (33)	19,856 (118)	
平成11 (1999)	21,337	5,540 (159)	2,811	3,394 (65)	33,082 (224)	
平成12 (2000)	15,252	5,150 (134)	1,886	2,072 (49)	24,360 (183)	
平成13 (2001)	12,162	3,365 (91)	1,561	1,903 (42)	18,991 (133)	
平成14 (2002)	11,368	2,230 (60)	1,720	1,429 (32)	16,747 (92)	
平成15 (2003)	11,313	2,981 (81)	1,624	1,495 (27)	17,413 (108)	
平成16 (2004)	8,568	2,715 (77)	1,470	1,075 (31)	13,828 (108)	
平成17 (2005)	10,829	1,458 (46)	1,398	2,431 (54)	16,116 (100)	
平成18 (2006)	14,322	2,771 (76)	1,776	2,627 (69)	21,496 (145)	
平成19 (2007)	11,663	2,384 (78)	1,356	3,294 (83)	18,697 (161)	
平成20 (2008)	10,617	2,261 (67)	1,519	2,668 (55)	17,065 (122)	
平成21 (2009)	12,766	1,969 (47)	1,840	2,141 (49)	18,716 (96)	
平成22 (2010)	10,778	1,431 (43)	1,964	1,661 (41)	15,834 (84)	
平成23 (2011)	9,511	1,169 (33)	1,542	1,508 (45)	13,730 (78)	
平成24 (2012)	15,493	1,138 (38)	2,001	1,630 (39)	20,262 (77)	
平成25 (2013)	11,241	806 (26)	1,250	1,461 (34)	14,758 (60)	
平成26 (2014)	12,518	768 (30)	1,063	1,510 (38)	15,859 (68)	
平成27 (2015)	15,552	1,114 (36)	1,636	1,344 (27)	19,646 (63)	
平成28 (2016)	12,636	1,232 (37)	1,164	1,405 (32)	16,437 (69)	
平成29 (2017)	12,033	962 (32)	1,251	1,126 (26)	15,372 (58)	
平成30 (2018)	13,198	780 (27)	1,374	1,045 (32)	16,397 (59)	
令和元 (2019)	9,537	1,042 (32)	1,195	566 (8)	12,340 (40)	
総 計	447,373	134,808 (4,122)	89,055	73,890 (1,645)	745,126 (5,767)	

年 度	一 般		中学生以下	合 計	備 考
	有 料	免 除			
令和2 (2020)	17,170	3,982	4,784	25,936	
令和3 (2021)	14,957	4,783	4,142	23,882	
令和4 (2022)	15,114	7,818	3,387	26,319	令和5年3月12日現在
総 計	47,241	16,583	12,313	76,137	

表10 実物資料の貸出(平成26年度～平成28年度)

年度	貸出先	資料名(点数)	目的(展覧会名など)
平成26年度	文化庁	野首遺跡火焰型・王冠型土器 計4点	「発掘された日本列島2014」(国内5館巡回)
	滋賀県立安土城考古博物館	野首遺跡火焰型・王冠型土器 計2点	秋季特別展「造形衝動の一万年」
	長岡市馬高縄文館	中島・枯木遺跡深鉢形土器 計6点	夏季特別展「南三十稲場式土器を探るー多様な沈線文の広がりー」
	津南町農と縄文の体験実習館なじよもん	久保寺南遺跡出土品ほか 計61点	秋季特別展「魚沼地域の先史文化」
	北の縄文道民会議	国宝・笹山遺跡火焰型土器No.1レプリカ1点	「赤れんが北の縄文世界展」
	十日町きものまつり・きものパレード部会	マジョリカお召・黒絵羽織ほか 計12点	十日町きものまつり
	十日町織物工業協同組合	明石ちぢみ 1点	明石縮研究会(東京呉服店会)
	下条地区公民館	旧三好村地籍図(情報館保管) 1点	公民館歴史教室
	魚沼市教育委員会生涯学習課	貝野村離縁状関係文書(情報館保管) 計3点	第6回生涯学習体験ひろば(魚沼市生涯学習推進協議会)
南魚沼市教育委員会社会教育課	徳永重光家文書(情報館保管) 計3点	写真展「今成家写真と南魚沼の文化」(南魚沼市・新潟大学人文学部)	
平成27年度	浅間縄文ミュージアム	幅上遺跡火焰型土器ほか19点/森上遺跡火焰型土器2点 計21点	春夏季企画展「縄文5000年前の世界」
	長岡市馬高縄文館	横割遺跡深鉢形土器3点・土偶2点 計5点	夏季企画展「北陸の土器と火炎土器Iー新潟県の様相をさぐるー」
	茅野市尖石縄文考古館	野首遺跡火焰型・王冠型土器5点/国宝・笹山遺跡火焰型土器No.1レプリカ1点 計6点	特別展「縄文土器造形の頂点 5000年後の競演」
	星と森の詩美術館	笹山遺跡火焰型・王冠型土器ほか7点/カウカ平A遺跡火焰型土器1点/宮ノ上A遺跡深鉢形土器1点 計9点	特別展「小さな星をさがして」
	津南町農と縄文の体験実習館なじよもん	伊達八幡館跡銅製仏具ほか22点/笹山遺跡・水沢館跡・南谷内館跡ほか陶磁器類36点 計58点	秋季特別展「魚沼地方の中世」
	山梨県立考古博物館	国宝・笹山遺跡火焰型・王冠型土器3点/野首遺跡火焰型・王冠型土器5点 計8点	秋季特別展「縄文の美ー世界に誇るJOMON芸術ー」
	九州国立博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.6) 1点	開館10周年記念特別展「美の国 日本」
	和光市教育委員会	野首遺跡火焰型土器ほか3点/笹山遺跡火焰型・王冠型土器2点/梶花遺跡ヒスイ加工品1点 計6点	市制施行45周年記念特別展「出土遺物の交流と結」
	十日町きものまつり実行委員会	明石ちぢみ・マジョリカお召・紬緋・越後縮紋付ほか 計15点	十日町きものまつり「きもの文化体験ひろば」
平成28年度	史跡古津八幡山・弥生の丘展示館	牛ヶ首遺跡土器ほか20点/城之古遺跡土製紡錘車ほか32点/柳木田遺跡管玉ほか28点 計80点	企画展「邪馬台国の時代3 古津八幡山の頃の信濃川右岸の世界」
	長岡市馬高縄文館	野首遺跡火焰型・王冠型土器 計2点	夏季企画展「火炎土器展」
	津南町農と縄文の体験実習館なじよもん	荒屋遺跡採集品(寄託) 計24点	秋季企画展「氷河期を生きた狩猟・採集民の世界」
	愛知県陶磁美術館	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.2・5)2点/野首遺跡王冠型土器1点 計3点	特別企画展「人が大地と出会うとき」
	國學院大學博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.6)・三角形土版・三角とう形土製品16点/笹山遺跡深鉢形土器1点/森上遺跡火焰型・王冠型土器2点/幅上遺跡王冠型土器1点/南雲遺跡大珠3点/ぼんのう遺跡石棒・三角とう形土製品2点/小坂遺跡三角形土版・三角とう形土製品11点/カウカ平遺跡土偶2点/大井久保遺跡土偶1点 計39点	特別展「ジョーモネスクジャパン2016火焰型土器のデザインと機能」
	新潟県立歴史博物館	アンギン関連資料(重文・寄託品を含む) 計41点	冬季企画展「すてきな布ーアンギン研究100年ー」
北海道文化振興課 世界遺産推進室	国宝・笹山遺跡火焰型土器No.1レプリカ1点	「縄文冬まつりーJOMON SNOW FESTIVALー」	

表11 実物資料の貸出(平成29年度～令和元年度)

年度	貸出先	資料名(点数)	目的(展覧会名など)
平成29年度	浅間縄文ミュージアム	幅上遺跡土器・焼成粘土塊16点/森上遺跡土器4点 計20点	企画展「縄文の技と美」
	長岡市馬高縄文館	大井久保遺跡土器2点/麻畑原B遺跡土器2点 計4点	夏季特別展「東北の土器と火炎土器Ⅰ」
	津南町農と縄文の体験実習館なじよもん	中林・田沢・原水無・中田B・中田D・干溝・久保寺南・本ノ木遺跡資料 計151点	秋季特別展「本ノ木-調査・研究の歩みと60年目の視点-」
	長野県立歴史館	野首遺跡土器 4点	秋季企画展「進化する縄文土器」
	京都大学総合博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.8)・三角形土版・三角とう形土製品16点/笹山遺跡深鉢形土器1点/野首遺跡土器7点/小坂遺跡土器1点/幅上遺跡土器2点/南雲遺跡大珠3点/ぼんのう遺跡石棒・三角とう形土製品2点/小坂遺跡三角形土版・三角とう形土製品11点/カウカ平遺跡土偶2点/大井久保遺跡土偶1点 計46点	特別展「火焰型土器と西の縄文 ジョーモネスクジャパン2017」
	京都国立博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器2点(No.1・6)	特別展覧会「国宝」
	カップヌードルミュージアム横浜	国宝・笹山遺跡火焰型土器No.1レプリカ1点	土器づくり体験プロジェクト
	北海道文化振興課 世界遺産推進室	国宝・笹山遺跡火焰型土器No.1レプリカ1点	「縄文冬まつり」
平成30年度	新潟県埋蔵文化財センター	野首遺跡土器42点、土製品17点、石器・石製品32点 計92点	春季企画展「火焰型土器-縄文の息吹-」
	東京国立博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.6)1点/野首遺跡火焰型・王冠型土器12点、三角形土偶3点 計16点	特別展「縄文-1万年の美の鼓動-」
	独立行政法人 国際交流基金	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.5)・王冠型土器(No.16)2点/野首遺跡ほか火焰型土器破片119点 計121点	ジャポニスム2018「深みへー日本の美意識を求めて-」(会場:パリ・ロスチャイルド館)
		国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.1)1点	ジャポニスム2018「縄文」(会場:パリ・日本文化会館)
	津南町農と縄文の体験実習館なじよもん	森上遺跡土器7点/笹山遺跡石器12点 計19点	秋季特別展「火焰土器の魅力」
	沖縄県立博物館・美術館	赤羽根・笹山・幅上遺跡土器10点/野首遺跡石器12点/狐窪遺跡垂飾1点 計23点	特別展「縄文と沖縄-火焰型土器のシンボリズムとヒスイの道-」
	山形県舟形町教育委員会	国宝・笹山遺跡火焰型土器No.1レプリカ1点	縄文の女神まつり2018
香川県立坂出高等学校	国宝・笹山遺跡火焰型土器No.1レプリカ1点	美術授業での土器制作	
平成31・令和元年度	新潟県埋蔵文化財センター	森上・カウカ平A・笹山遺跡火焰型土器計3点	常設展示室での展示(4~8月、9~12月、1~3月)
		南雲遺跡大珠2点、寿久保遺跡大珠1点、長者原遺跡勾玉1点、梶花遺跡ヒスイ加工品1点 計5点	秋季企画展「海をわたったヒスイ」
	長岡市馬高縄文館	野首遺跡深鉢11点、土製品25点、石製品3点 計39点	夏季特別展「馬高式土器とその文化」
		中島遺跡深鉢5点・土偶4点・石棒2点 計11点/寿久保遺跡深鉢1点/野首遺跡深鉢2点 計14点	秋季特別展「三十稲場式土器とその文化」
	津南町農と縄文の体験実習館なじよもん	野首遺跡・樽沢開田遺跡出土品ほか 計26点	秋季特別展「技と造形の縄文世界」
	新潟県立歴史博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.6)1点、笹山遺跡火焰型・王冠型土器2点 計3点	特別展「国民の文化財 あ、これ知ってる!はにわ、どぐう、かえんどきの昭和平成」
	星と森の詩美術館	スノリア工芸品ほか 計17点	「没後40年、星襄一もう一つの挑戦」
新潟市歴史博物館	蕪木元昭家文書 1点	「新潟港開港150周年記念展」	

表12 実物資料の貸出（令和2年度～令和4年度）

年度	貸出先	資料名（点数）	目的（展覧会名など）
令和2年度	津南町農と縄文の体験実習館なじよもん	野首遺跡土器16点、笹山遺跡土器4点、森上遺跡土器1点 計21点	秋季特別展「千曲川－信濃川流域の縄文文化・火焰土器前夜の世界－」
	府中市美術館	野首遺跡火焰型土器1点	「日本の美を貫く 炎の筆<線>」展
	長岡市馬高縄文館	赤羽根遺跡土器5点、干溝遺跡土器1点、清津宮峯遺跡土器 計7点	秋季特別展「大武遺跡と縄文前期の土器文化」
	茨城県立歴史館	国宝・笹山遺跡火焰型土器（No.3・9）2点、森上遺跡火焰型土器ほか4点、寿久保遺跡大珠1点 計7点	特別展「Jomon Period－縄文の美と技、成熟する社会－」
	（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団	国宝・笹山遺跡火焰型土器レプリカ（No.6）1点	常設展示室での展示（8～3月）
	新潟県立歴史博物館	アングイン衣服3点	体験事業
	津南町教育委員会	干溝遺跡土器1点、久保寺南遺跡土器レプリカ1点 計2点	レプリカ製作
国立民族学博物館	越後縮・マジョリカ・黒絵羽織ほか	特別展「復興を支える地域の文化－3.11から10年－」	
令和3年度	国立民族学博物館	越後縮・マジョリカ・黒絵羽織ほか	特別展「復興を支える地域の文化－3.11から10年－」
	津南町農と縄文の体験実習館なじよもん	城之古遺跡弥生土器ほか47点、牛ヶ首遺跡土器2点、新座原遺跡石器1点、馬場上遺跡土器ほか30点、下ノ原遺跡土器65点、柳木田遺跡土器31点、上屋敷遺跡紡錘車1点、干溝遺跡土器ほか13点、内後遺跡土器1点 計191点	秋季特別展「魚沼地方の古代－山里のなりわいと交流－」
	長野県立歴史館	国宝・笹山遺跡火焰型土器（No.2）、国宝・王冠型土器（No.15）、国宝・深鉢形土器（No.21・44）、野首遺跡火焰型土器1点、幅上遺跡火焰型土器ほか6点、国宝・笹山遺跡火焰型土器（No.1）レプリカ1点 計12点	秋季企画展「全盛期の縄文土器」
	長岡市馬高縄文館	干溝遺跡土器12点、久保寺南遺跡土器18点、石器14点、真萩田遺跡土器18点、清津宮峯遺跡土器3点、石器8点、おざか清水遺跡土器12点、田沢遺跡土器37点、石器16点 計138点	特別展「信濃川流域の縄文草創期・早期の土器文化」
	岩宿博物館	愛宕山遺跡舟底形石器1点	第75回企画展「相沢忠洋と岩宿遺跡研究」
	新潟県立歴史博物館	野首遺跡火焰型土器1点、野首遺跡王冠型土器1点、干溝遺跡微隆起線文土器1点 計3点	冬季テーマ展「やきもの産地・新潟」
令和4年度	新潟県立歴史博物館	野首遺跡火焰型土器1点、野首遺跡王冠型土器1点、干溝遺跡微隆起線文土器1点 計3点	夏季テーマ展「重要文化財・村尻遺跡出土品」
	津南町農と縄文の体験実習館なじよもん	内後遺跡土器 13点	秋季企画展「苗場山麓1,800万年の軌跡」
	津南町農と縄文の体験実習館なじよもん	赤羽根遺跡土器 一式	調査研究のため
	長岡市馬高縄文館	樽沢開田遺跡土器4点・土偶14点・土製耳飾26点 計44点	特別展「藤橋遺跡と縄文晩期の土器文化」
	新潟県立歴史博物館	南雲遺跡大珠3点、寿久保遺跡大珠1点、長者原A遺跡勾玉1点 計5点	ヒスイ「県の石」指定記念ミニ展示
長野県立歴史館	森上遺跡火焰型土器1点	資料相互貸借	

表13 写真資料の貸出(平成26年度～平成28年度)

年度	貸出先	出版物	貸出資料	備考
平成26年度 (110件)	文英堂	『スーパー歴史年表』	国宝・笹山遺跡火焰型土器	中学校問題集
	(有)アート・エフ	『中3 夏期講座テキスト』		
	株東京書籍	『新編 新しい社会 歴史』		中学校教科書
	株光文書院	『社会科資料集6年』		小学校資料集
	株光村教育図書	『あかねこ夏スキル6年』		小学校問題集
	光ミュージアム	特別展『エジプトvs縄文』展示パネル		
	株平凡社	『別冊太陽 日本美術史入門』		
	株アッシュ	『絶対に見ておきたい 日本の国宝』		
	株セブンクリエイティブ	『はじめての土偶』	野首遺跡 三角形土偶	
	株広告と写真	環境情報誌『SAFE』	雪室	
	株グレイル	『戦国大名格付け』	青苧、苧	
	株はる制作室	『図解 邪馬台国と卑弥呼』	竪穴のすまい(考古展示)	
平成27年度 (141件)	株ポプラ社	『日本の歴史I 縄文人と弥生人』	国宝・笹山遺跡火焰型土器	
	東京藝術大学出版会	『国宝 精選 工芸品・考古資料』		
	株西東社	『超ビジュアル! 日本の歴史大事典』		
	株光村教育図書	『美術1』		中学校教科書
	株実教出版	『高校日本史B 新訂版』		高校教科書
	株教育出版	『小学社会デジタル教科書6年』		小学校教科書
	株光村教育図書	『美術史年表』		
	株NHKエデュケーショナル	NHK Eテレ「びじゅチューン!」		
	朝日新聞出版	『日本発掘! ここまでわかった日本の歴史』	国宝・笹山遺跡火焰型土器 野首遺跡土器	
	株小学館	『日本美術全集 日本美術創世紀(縄文・弥生・古墳時代)』		
	株はる制作室	別冊宝島『骨からわかる日本人の起源』	ジオラマ(竪穴住居内)	
	株学研プラス	『パーフェクトコース 中学社会 改訂版』	ジオラマ(秋の一日)	中学校問題集
平成28年度 (156件)	株東京法令出版	『ポイント整理日本史』	国宝・笹山遺跡火焰型土器	高校問題集
	(有)アート・エフ	『2017センター試験実問題集 日本史B』		
	株ユニフォトプレスインターナショナル	『標準新演習社会2 夏季テキスト』		中学校問題集
	栃木県連合教育会	『夏休みの友・6年』		小学校問題集
	株阿部出版	『日本近現代陶芸史』		
	株小学館クリエイティブ	『はじめて出会う日本美術』		
	株誠文堂新光社	『新しい 縄文の教科書』		
	株エディット	『ノジュール』10月号		
	株便利堂	『国宝辞典』第四版		
	株グレイル	別冊宝島『万葉集とは何か』		館内展示「栗ノ木田遺跡の配石墓」
	株悠工房	『しあげパワーアップ 6年』	笹山遺跡出土 石鏃	小学校問題集
	株ベストセラーズ	『歴史人』4月号	青苧	
	ハースト婦人画報社	『美しいキモノ』2016年冬号	越後縮の紡織用具及び関連資料	

表 14 写真資料の貸出(平成29年度～令和元年度)

年度	貸出先	出版物	貸出資料	備考
平成29年度 (157件)	株式会社 シュヴァン	京都造形芸術大学『芸術史講義』	国宝・笹山遺跡火焰型土器	大学講義資料
	㈱日本教材システム	『2017年度 追手門学院大学 入学試験問題集』		高校問題集
	㈱ベネッセコーポレーション	『2017年度 夏の特別Challenge 中1』		中学校問題集
	㈱Z会	『中学受験コース』		小学校問題集
	栃木県連合教育会	『夏休みの友・6年』		小学校問題集
	㈱宝島社	『TJMOOK 国宝への誘い』		
	㈱小学館	『和楽 10・11月号』		
	㈱いきもん	布製ポーチ		カプセルトイ
	NHK	『北斎展&国宝展 開催記念 びじゅチューン! 井上涼のニッポン美術祭り』		イベント
	㈱八海醸造	リーフレット		雪室
	㈱敬文舎	『縄紋時代史 I』	信濃川・清津川合流地点	
	㈱ アム・プロモーション	『縄文カレンダー2018』	干溝遺跡 隆起線文土器	
	㈱戎光祥出版	『上杉謙信』	越後縮で仕立てた袷姿	
	㈱テレコムスタッフ	「英雄たちの選択 木曾義仲」	木曾義仲(児玉輝彦 作)	T V 番組
平成30年度 (197件)	㈱アフロ	『平成30年度 第1回栃木県立高 オープン模試 社会』	国宝・笹山遺跡火焰型土器	模試
	(有)アート・エフ	『2018百戦錬磨 塾用テキスト』		問題集
	㈱Z会	『中学受験コース 5年生』		小学校問題集
	早稲田大学文学学術院	「日本考古学概説」		講義教材
	朝日出版社	『縄文折り紙』		
	縄文ZINE編集部	『縄文力で生き残れ』		
	㈱小学館	『小学館ウィークリーブック ニッポンの国宝100』		
	㈱ I V S テレビ制作	ネプリーグ		T V 番組
	NHK	特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」展		特別展
		「歴史秘話 ヒストリア 縄文の美」		T V 番組
	㈱平凡社	『新版 縄文美術館』	野首遺跡出土 石器	
	㈱敬文舎	『リトルトーキョーライブ質問道場～縄文時代～』	土製耳飾り	T V 番組
㈱ウオシヨク	AreaB こがね牧農舎内「雪室熟成」	雪室に関する画像	中学校問題集	
令和元年度 (180件)	京都工芸繊維大学	『一般入試 総合問題(デザイン・建築学課程)』	国宝・笹山遺跡火焰型土器	入試問題
	㈱帝国書院	「教科書表紙」		教科書
	㈱テレコムスタッフ	「英雄たちの選択 原始日本SP」		T V 番組
	㈱エッジュ	NHK BS8K4K「8K 国宝シリーズ プロローグ」		T V 番組
	㈱TBSスパークル	「彩～日本遺産～」		T V 番組
	南魚沼市教育委員会	特別展『雪の恩返し～越後上布・米・鈴木牧之と北越雪譜～』		「越能山都登」糸くり・撚りかけ
	新潟市歴史博物館	第16回むかしのくらし展『布とむかしのくらし』	蚕、カラムシ	

表 15 写真資料の貸出（令和2年度～令和4年度）

年度	貸出先	出版物	貸出資料	備考
令和2年度 (223件)	(株)光村教育図書	『あかねこ夏スキル 社会科ページ』	国宝・笹山遺跡火焰型土器	小学校問題集
	(株)アフロ	『わからないをわかるにかえる中学歴史』		
	(有)ユーフォリアファクトリー	『TRANSIT48号』		
	(株)むしか	『るるぶびじゅチューン!』		
	(株)NHKエデュケーショナル	イベント「びじゅチューン!ライブin真夏の能楽堂2020」		イベント
		ウェブ「チョコちゃんといっしょに課外授業」		映像配信
	(株)明治図書出版	『よくわかる国語の学習3』		無官太夫熱盛（児玉輝彦筆）
(株)テレビ朝日	「戦国大名総選挙」	越後縮	TV番組	
令和3年度 (133件)	(株)光村推古書院	『かわいい古代』（著者：譽田亜紀子）	国宝・笹山遺跡火焰型土器	
	(株)グレイル	『国宝の地図帳 ハンディ版』		
	(株)かみゆ	『物語で読む 国宝の謎100』		
	一般財団法人 小原流	『小原流 押花 11月号』		
	(株)NHKエンタープライズ	「歴史探偵 参勤交代」		TV番組
	(株)悠工房	『高校合格への道 要点と対策 社会』	須恵器	中学校問題集
	(株)戎光祥出版	『図説 上杉謙信』	カラムシ、青苧	
	テレビ東京・BSテレビ東京	「新・美の巨人たち～国宝『火焰型土器』と縄文アート×本仮屋ユイカ～」	博物館 展示室内 等（撮影）	TV番組
	TBS系列	「世界ふしぎ発見!～縄文ワンダフルライフ～」		TV番組
	BSテレビ東京	「戦国三大武将の経済学」		TV番組
令和4年度 (141件)	(株)ディスカバー・ジャパン	『Discover Japan 2022年9月号』	国宝・笹山遺跡火焰型土器	
	(株)小学館	『小学館版 学習まんが日本の歴史』		
	(株)フィグイング	『いま絶対に見ておくべき日本の国宝』		
	(株)扶桑社	『Numero TOKYO 12月号』		
	(株)日経映像	テレビ東京「新美の巨人たち」		TV番組
	(株)リタピクチャル	番組「アートなんかいらんない!」	縄文土器5点	放送
	(株)柏書房	『土偶大事典』	カウカ平遺跡、笹山遺跡、大井久保遺跡、樽沢開田遺跡、野首遺跡の土偶	
	(株)かみゆ	JTBのMOOK『るるぶ縄文』	国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器、博物館外観、展示物・館内の様子 など	
	(株)ワイズカンパニー	『KAZE NETWORK NEWS vol.283』		

表 16 博物館実習生に関するデータ（昭和55年度～令和4年度）

年度	人数	大学名	備考
昭和55年度	1	東北福祉大学	
昭和56年度	1	和洋女子大学	
昭和57年度	1	東北福祉大学	
昭和58年度	1	新潟大学	
昭和59年度	1	新潟大学	
昭和60年度	2	東北福祉大学、専修大学	
昭和61年度	1	和洋女子大学	
昭和62年度	0		
昭和63年度	1	東北福祉大学	
平成元年度	0		
平成2年度	2	東京学芸大学、新潟大学	
平成3年度	3	新潟大学(3)	
平成4年度	5	東京学芸大学、駒沢大学、群馬大学、新潟大学、上越教育大学	
平成5年度	5	静岡大学、新潟大学(4)	
平成6年度	2	専修大学、駒沢大学	
平成7年度	4	金沢学院大学、帝京大学、新潟大学(2)	
平成8年度	1	群馬県立女子大学	
平成9年度	5	群馬県立女子大学、駒沢大学、帝京大学、愛知学院大学、日本福祉大学	
平成10年度	4	目白大学(2)、長岡造形大学、筑波大学	
平成11年度	4	新潟大学、長岡造形大学(2)、米沢女子短期大学	
平成12年度	3	東海大学、白梅学園短期大学、千葉大学	
平成13年度	5	長岡造形大学、国土館大学、東京女子大学、京都橘女子大学、共立女子大学	
平成14年度	5	東洋大学、江戸川大学、米沢女子短期大学、駒沢大学、立正大学	
平成15年度	5	都留文科大学、上越教育大学、大正大学、帝京大学、新潟大学	
平成16年度	4	金沢学院大学、京都橘女子大学、大正大学(2)	
平成17年度	2	東海大学、麻布大学	
平成18年度			
平成19年度			
平成20年度	2	東海大学、愛知淑徳大学	
平成21年度	3	八洲学園大学、日本大学、長岡造形大学	
平成22年度	2	富山大学(2)	
平成23年度	3	跡見学園女子大学、新潟大学、大正大学	
平成24年度	4	日本女子大学、川村学園女子大学、新潟産業大学(2)	
平成25年度	3	新潟産業大学、東海大学、東京農業大学	
平成26年度	3	金沢学院大学、長岡造形大学(2)	職場体験(中学生)7名
平成27年度	1	新潟大学	職場体験(中学生)4名
平成28年度	3	昭和女子大学、鶴見大学、東海大学	職場体験(中学生)5名
平成29年度	5	新潟大学(2)、新潟産業大学(2)、龍谷大学	職場体験(中学生)●名
平成30年度	0		職場体験(中学生)9名
平成31年・令和元年度	1	目白大学	職場体験(中学生)6名
令和2年度	1	米沢女子短期大学	
令和3年度	0		職場体験(高校生)1名
令和4年度	0		職場体験(中・高校生)7名

# 十日町市博物館研究紀要第 2 号

Bulltin of the Tokamachi City Museum, No.2 (March 2023)

ISSN 2437-0118

発行日 2023 年 3 月 31 日

編集・発行者 十日町市博物館

〒 948-0072 新潟県十日町市西本町一丁目 448 番地 9